

平成 30 年度

香川大学教育学部と香川県教育委員会との
連携に関する実績報告書

香川大学教育学部／香川県教育委員会

連携協力のさらなる深化・発展をめざして

香川大学教育学部と香川県教育委員会の連携事業は、「教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る」（覚書、第1条）ことを目的として、毎年広範かつ活発に行われています。平成30年度については、教員養成に関する取組みが4件、教員研修に関する取組みが6件、調査・研究に関する取組みが2件、事業に関する取組みが15件、その他の取組みが1件など、合計で28件もの多岐にわたる連携事業が実施されました。毎年2月に開催される連携協議会は、会議と情報交換会をセットにして相互の交流が図られております。

教育学部は、平成28年8月に出された「国立教員養成大学・学部、大学院、附属学校の改革に関する有識者会議」の最終報告を受けて、これからは実践的な教員養成機能に加えて、現職教員の教育・研修機能をより一層強化していきます。

教員研修に関する取組みとして、香川大学教育学部では、小学校英語教科化に向けた専門性向上のため、小学校教員が中学校2種免許（英語）できる免許法認定講座を平成28年度から実施してきました。また、県教育センターのオンライン研修サイトに若年教員向け研修動画コンテンツを提供しました。今後も、教員研修のより効率的・効果的な実施のために、研修動画コンテンツを開発・提供していきます。

さらに、教員研修に関する連携の取組みについて語るとき、連携協議会のもとに新しく設置された専門委員会（教員研修システム共同開発委員会）の役割について触れなければなりません。これからは、この「教員研修システム共同開発委員会」において、教職大学院の授業を活用した教員研修システムの開発、現職教員研修の共同企画・実施について検討、具体化していくこととなります。

また、教育学部における高大連携の取組みとして、平成29年度に開設された県立坂出高校教育創造コースの教育プログラムに協力しています。とくに附属坂出学園を学びのフィールドとして活用し、附属の子どもと交流している実践が高く評価され、有識者会議の報告書を踏まえた国立教員養成大学・学部の取組みの事例集において、好事例（グッド・プラクティス）として掲載されることになりました。

香川大学教育学部は、これからも、人材育成や地域課題を解決する取り組みを通して地域に貢献する学部として、香川県教育委員会との連携協力の関係を深化・発展させ、両者の協働的な取り組みを一層強力に推進していきたいと考えています。

平成31年3月

香川大学教育学部長

毛利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

本県では、平成 28 年度に第 3 期「香川県教育基本計画」を策定し、「夢に向かってチャレンジする人づくり」の基本理念のもと、学校、家庭、地域社会が連携して子どもたちを育てることができるよう、学力の育成やこころの育成、教員の指導力向上等を柱とした教育施策を積極的に展開しております。

このような中、平成 14 年度からスタートした香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組は 17 年目を迎え、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸問題へ対応するため、多方面で連携協力しているところです。

本年度の連携事業を振り返りますと、県教育委員会各課主催の現職教員研修や各種事業、100 講座に及ぶ教員免許状更新講習等における講師・助言者として専門的な視点からのご指導・ご助言をいただきました。また、学力向上施策を中心としたモデル校事業や道德の教科化に向けた取組において、研究指定校へ直接足を運んでご指導をいただいたり、県教育センター運営協議会においてご意見を頂戴したりと、様々な場面でご支援、ご協力をいただきました。本年度は新たに香川県全体の学力向上に向けて、香川県学力等調査結果分析検討会議を立ち上げ、学力・学習状況調査の結果分析並びに分析結果の有効活用について、ご指導をいただきました。新たな取組の継続が子どもたちの学力向上につながるよう、今後も引き続き、連携を深めていくことができればと思います。

また、昨年度開講した坂出高校「教育創造コース」についても 2 年目を迎え、教育創造コースの生徒を対象に教育学部の教授による出前講座を実施していただいたり、附属坂出幼稚園・小学校・中学校を訪問させていただいたりしました。そのような経験を通し、生徒は教職への夢を膨らませ、理想の教師像を形づくり、将来の香川の教育を担う人材が香川で育っていくと感じました。

香川県は、教育県として、勤勉な教師文化、教員同士が学び合える研究会文化が伝統的に根付いていますが、教育委員会では香川県が求める教師像として「教育に対する情熱をもち、素養と資質を備えた教員」「専門的な知識や技能・指導力を有し、社会変化や教育課題に適切に対応できる教員」「連携・協働しながら学校運営に積極的に参画する教員」をあげています。

今後の教員の資質向上及び教育活動の質の向上に向けて、香川大学教育学部と県教育委員会の連携・協力がさらに重要であると考えております。この 17 年間において充実・発展してきた取組を大切に、教育県香川の一層の発展に向け、最大限の努力をしまいたいと考えております。

平成 31 年 3 月

香川県教育委員会教育長

工 代 祐 司

目 次

はじめに

学び続ける教員を支えるキャリアシステムの構築のために

香川大学教育学部長 毛利 猛

香川大学教育学部と香川県教育委員会の一層の連携に向けて

香川県教育委員会教育長 工 代 祐 司

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取り組み

【概要編】

平成 30 年度の香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み一覧 6

【資料編】

[資料 1]	平成 30 年度公立学校インターンシップ実施要領.....	13
[資料 2]	公立学校教員等の活用.....	15
[資料 3]	香川大学教育学部の専任教員として.....	18
[資料 4]	大学教員の公立学校現場での研修制度.....	21
[資料 5]	平成 30 年度香川県教育委員会免許法認定講習..... (特別支援学校教諭)	22
[資料 6]	免許法公開認定講座.....	23
[資料 7]	教員免許状更新講習.....	25
[資料 8-1]	思考力等の育成モデル校事業.....	30

[資料 8-2]	学習習慣形成モデル校事業	31
[資料 8-3]	学習意欲向上モデル校事業	32
[資料 8-4]	アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業	33
[資料 8-5]	幼児教育支援員派遣事業	34
[資料 8-6]	豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進	36
[資料 9]	香川県学力等調査結果分析検討会議	37
[資料 10]	キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）	38
[資料 11]	高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）	39
[資料 12]	学生ボランティア派遣事業	40
[資料 13]	学生ボランティア派遣事業（放課後子供教室）	41
[資料 14]	豊かな人権感覚を育てる事業（学生ボランティア募集）	42
[資料 15]	第 17 回「未来からの留学生」を終えて	43
[資料 16]	平成 30 年度特別支援教育コーディネーター協議会	44
[資料 17]	香川 CST 事業	45
[資料 18]	四国道徳ラボの取組	46
[資料 19]	坂出高校教育創造コースの教育内容整備事業	49
[資料 20]	ICT を利用した障害理解、遠隔授業指導、遠隔教育相談	52

【覚書・要項】

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する覚書	55
香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項	56

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力
に関する取り組み

概 要 編

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協力に関する取組一覧

I 協議会関係

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
①連携協議会等の開催 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 連携協議会 (H31.2.5) ○ 幹事会 (H31.1.25) <ul style="list-style-type: none"> (1) 平成 30 年度連携協議会について (2) 2019 年度連携事業計画について <ul style="list-style-type: none"> ・ 継続連携事業について ・ その他 (3) その他 ○ 専門委員会 <ul style="list-style-type: none"> ・ 第 1 回教員研修システム共同開発委員会 (H30.6.25) <ul style="list-style-type: none"> (1) 小学校英語教科化に対応する認定講習 (中英 2 種) の継承について (2) 県教育センターのオンライン研修サイトへのコンテンツの提供について (3) 教職大学院を中心とする教員研修への貢献について ・ 第 2 回教員研修システム共同開発委員会 (H30.11.22) <ul style="list-style-type: none"> (1) 教職大学院の授業を活用した教員研修の仕組みづくりについて 	連携協議会開催 (2020.2 予定) ・ 幹事会 (1 回程度)	
②報告書の作成 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度実績報告書作成 	・ 2019 年度実績報告書作成	

II 連携関係

1 教員養成に関するもの

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
①公立学校での教育実習 〔担当：教育学部〕	正規 ・附特支 公立 1 校（参観）7 月（1 日間） 特別 ・附高小 公立小 4 校（実習）5・6 月（10 日間） ・附坂小 公立小 2 校（実習） 5 月（10 日間） ・附高中 公立中 2 校（実習）5・6 月（ 5 日間） ・附坂中 公立中 1 校（実習） 6 月（ 5 日間） ※「正規」は、教育実習期間中に行うもの。 「特別」は、希望により行うもの。	・継続実施	
②公立学校インターンシップ 〔担当：教育学部〕	○ 教員採用内定者が公立学校で研修（予定） ・参加者予定：41 名（学部 41 名、院 0 名） ・実施期間 平成 31 年 2 月～3 月（5 日程度）	・継続実施	資料 1
③公立学校教員等の活用 （県教育センター） （義務教育課） 〔担当：教育学部〕 〔担当：県教委〕	○ 現職教員等が附属教職支援開発センター客員教授として講義 ・退職校長（岡静子）、主任指導主事（東条直樹、大林克暢、山田真粧美） ・年間 2 期、1 人 20～25 時間程度の講義 ○ 現職教員等が教員養成実地指導講師として講義	・継続実施	資料 2
	○ 現職教員等 3 名を大学教員（准教授）として採用（H15.4.1～） 佐藤盛子、十河 妹、大熊裕樹	・継続実施	資料 3
④大学教員の公立学校現場での研修制度（義務教育課） 〔担当：教育学部〕	○ 大学教員が公立学校現場で研修 ・研修者（3 名） 畦 五月 准教授 高松市立亀阜小学校 古橋 紀宏 准教授 高松市立亀阜小学校 東浦亜希子 講師 高松市立亀阜小学校	・継続実施	資料 4

2 教員研修に関するもの

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
①大学院での現職教員の研修 (義務教育課) (高校教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H19.8名、H20.7名、H21.8名 H22.7名、H23.6名 H24.5名、H25.5名、H26.5名、H27.5名、H28.11 名、H29.10名、H30.10名) ・教職大学院学校力開発コース 2名 ・教職大学院授業力開発コース 6名 ・教職大学院特別支援 Co コース 1名 ・学校臨床心理専攻 1名 ※人数は1年次(小・中・高)のもの	・継続実施	
②教員免許状取得のための の研修 (免許法認定講習等) (高校教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 免許状取得・上進のための研修 ・県主催免許法認定講習(8月)への大学教員の 派遣等	・継続実施	資料5
(免許法認定公開講座) [担当：教育学部]	○ 小学校の現職教員が中学校教諭免許状(外国語 (英語))を取得するための免許法認定講習を 実施(13講座、14単位)	・継続実施	資料6
③指導改善研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 協力校研修の実施 ・附高中 5月(4日間) ・受講者 中学校教諭1名 ・現場研修において、副校長、教頭、指導担当教 諭等が、教科指導、学級経営等について指導・ 助言	・未定	
④教職員研修 (県教育センター) [担当：県教委]	○ 初任者研修等、各種研修会の講師・助言者と して大学教員を派遣	・継続実施	
⑤特別支援教室への派遣 (義務教育課) (特別支援教育課) [担当：県教委]	○ 内地留学の実施 (H25 2名、H26 2名、H27 2名、 H28 2名、H29 2名 H30 2名)	・継続実施	
⑥教員免許状更新講習 [担当：教育学部]	○ 教員免許状更新講習として必修講習 7、選択 必修講習 21、選択講習 72 の計 100 講座を開 設	・教員免許状更新講 習として必修講 習 6、選択必修講 習 17、選択講習 76 の計 99 講座 を開設する予定	資料7

3 調査・研究に関するもの

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
①公立学校等の教育活動支援 (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 校内研究活動等への指導・支援のための講師派遣 ・ 思考力等の育成モデル校事業 ・ 学習習慣形成モデル校事業 ・ 学習意欲向上モデル校事業 ・ アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業 ・ 幼児教育支援員派遣事業 ・ 豊かな心を育てる事業	・ 継続実施	資料 8
②香川県学力等調査結果 分析検討会議 (県教育センター) (義務教育課) 〔担当：県教委〕	○ 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習 状況調査」の結果分析に対する指導助言	・ 継続実施	資料 9

4 事業に関するもの

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
①キャリア教育充実事業 (プロを講師とした授業) (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 大学教員を講師として派遣 高松北高、高松桜井高	・ 継続実施	資料 10
②高大連携 (高校教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体験授業：1 講座で 9 校 43 人が受講	・ 継続実施	資料 11
③学生ボランティアの派遣 (義務教育課) (生涯学習・文化財課) (人権・同和教育課) 〔担当：県教委〕	○ 学生ボランティア派遣事業（登録者 64 名） ・ 学習指導の補助、学校生活への適応補助など公立小・中学校や教育支援センター（適 応指導教室）に 64 名を派遣（H30. 12. 1 現在）	・ 継続実施	資料 12
	○ 「放課後子供教室」支援ボランティア等の募集	・ 継続実施	資料 13
	○ 豊かな人権感覚を育てる事業 ・ 支援ボランティアとして 3 名参加	・ 継続実施	資料 14

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
④家庭教育支援推進事業 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 家庭教育に関する学習講座等に大学教員を派遣	・継続実施	
⑤未来からの留学生 〔担当：教育学部〕	○ 幼・小・中学生とその保護者を対象に開催（県教委後援） ・約 800 名が参加	・継続実施	資料 15
⑥県立学校との連携 (高校教育課) (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 県立学校の学校評議員等として大学教員が協力	・継続実施	
⑦各種委員会等への協力状況 (県教委各課) (県教育センター) 〔担当：県教委〕	○ 各種事業委員会の委員等として相互協力	・継続実施	
⑧生涯学習の機会の提供 (生涯学習・文化財課) 〔担当：県教委〕	○ 「地域の生涯学習支援事業・キャンパス講座」として大学の授業を公開（1 名受講）	・継続実施	
⑨特別支援教育体制整備 推進事業 ・専門家チーム ・巡回相談 ・特別支援教育コーディネーター協議会 ・就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会 (特別支援教育課) 〔担当：県教委〕	○ 体制整備の推進に関する指導・助言 ○ 学校（園）を訪問し、発達障害のある児童生徒への指導内容・方法、学校（園）の支援体制について指導助言 ○ 特別支援教育コーディネーター協議会での講義 ○ 就学に関わる教育相談・支援体制構築に関する協議会での講義	・継続実施	資料 16
⑩香川 CST 事業 〔担当：教育学部〕	○ 本協議会に設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が実施 ○ CST 養成プログラムの実施 ○ CST 養成プログラムの修了認定 ○ CST 活動の推進	・継続実施	資料 17
⑪「発達障害に関する教職員等の理解啓発・専門性向上事業」 〔担当：教育学部〕	○ 発達障害等に関する専門的実践的知識の習得のための研修プログラムの開発、早期支援に関わる幼稚園・保育園と小学校の連携した研修プログラムの開発等に義務教育課、特別支援教育課が参加・連携協力。	・継続実施	

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
⑫平成 30 年度教員の資 質向上のための研修 プログラム開発事業 〔担当：教育学部〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ プログラム名：「質の高い道德科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発～『四国道德ラボ』を核として～」 ・「四国道德ラボ研修会Ⅰ～Ⅵ」Ⅰ、Ⅲは香川大で、Ⅴは香川県教育センターで、Ⅱは高知、Ⅳは愛媛、Ⅵは徳島で開催。 ・「かがわ道德ラボ指導者研修会」（12月10日開催） ・「質の高い道德科の授業づくり DVD 教材」作成・配布、校内研修、個人研修等で活用できる教材作成、等による研修プログラムの開発に義務教育課、香川県教育センターが連携協力 	<ul style="list-style-type: none"> ・他県からも多数の参加があり、3年間の継続で1500名超の参加。未定だが、次年度は英語ラボと道德ラボの教科化対応ラボへの発展も検討 	資料18
⑬坂出高校教育創造コー スの教育内容整備事業 （高校教育課） 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 出前授業の実施（7回） ○ 附属坂出幼稚園、小学校、中学校における教育活動への参加（15回） ○ 教育内容に関する検討 ○ 大学研究室への訪問 	<ul style="list-style-type: none"> ・出前授業の実施 ・附属幼稚園及び附属坂出中学校における教育活動への参加 ・教育内容に関する検討 	資料19
⑭非認知スキル向上事業 （生涯学習・文化財課） 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 研究指定幼稚園への指導派遣（体幹講座） 高松市立一宮幼稚園（2回） 観音寺市立大野原幼稚園（3回） 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業は継続実施であるが幼稚園への指導派遣は未定 	
⑮ICT を利用した障害理 解、遠隔授業指導、遠 隔教育相談 （担当：教育学部）	<ul style="list-style-type: none"> ○自閉症 VR 体験による障害理解（教員対象） 教育センター、県立学校コーディネーター ○遠隔教育相談 教育センター、小豆島中央高校、小豆島中学校、土庄中学校、苗羽小学校 ○遠隔授業指導 苗羽小学校、土庄中学校 	<p>2019 年度は科研費を申請中</p>	資料20

5 その他

項 目	平成 30 年度実績	2019 年度計画等	資 料
①附属学校への教員派遣 （義務教育課） 〔担当：県教委〕	<ul style="list-style-type: none"> ○ 平成 30 年度新規派遣 ※（ ）は合計数 ・ 附属高松小 6（27） ・ 附属高松中 4（20） ・ 附属坂出小 3（18） ・ 附属坂出中 4（19） ・ 附属特別支援学校 2（12） ・ 附属幼稚園 1（5） 計 20 名（101 名） 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続実施 	

資 料 編

平成30年度公立学校インターンシップ実施要領

香川大学教育学部

1. 目的

平成31年3月卒業見込又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（大学院生を含む）が、4月以降の教員としての生活に先立ち、教員の職務の実態に触れることによって、児童・生徒への理解や教員としての職務の理解を深め、教職へ就くことへの意識向上を図る。

2. 対象者

平成31年3月卒業又は修了見込で香川県における教員採用が内定している教育学部又は教育学研究科の学生（ただし教職大学院生及び講師経験のある院生は対象外にすることができる。）

3. 参加人数

公立小学校	28名	公立中学校	11名
公立高等学校	1名	公立特別支援学校	1名

4. 実施時期・期間

平成31年2月～平成31年3月初旬の間で1週間（5日程度）

5. 研修学生（大学院生）、研修校及び研修予定期間

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	香川県立高松商業高等学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	香川県立香川中部養護学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	さぬき市立志度中学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	まんのう町立満濃南小学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	綾川町立綾南中学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	綾川町立昭和小学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	綾川町立陶小学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	丸亀市立城坤小学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	丸亀市立城北小学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	丸亀市立東中学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	琴平町立琴平小学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	高松市立一宮中学校	2/25～3/1	1名
教育学部4年	高松市立亀阜小学校	2/18～2/22	3名
教育学部4年	高松市立香東中学校	2/25～3/1	1名
教育学部4年	高松市立桜町中学校	2/4～2/8, 2/25～3/1	2名
教育学部4年	高松市立紫雲中学校	2/25～3/1	2名
教育学部4年	高松市立新番丁小学校	2/18～2/22, 2/25～3/1	2名
教育学部4年	高松市立多肥小学校	2/18～2/22	3名
教育学部4年	高松市立太田中学校	2/25～3/1	1名

研修学生	研修校	研修予定期間	備考
教育学部4年	高松市立太田南小学校	2/25～3/1	1名
教育学部4年	高松市立檀紙小学校	2/25～3/1	1名
教育学部4年	高松市立中央小学校	2/18～2/22	2名
教育学部4年	高松市立牟礼小学校	2/4～2/8	2名
教育学部4年	高松市立牟礼北小学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	高松市立木太南小学校	2/18～2/22	2名
教育学部4年	坂出市立東部小学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	三豊市立比地小学校	2/4～2/8	1名
教育学部4年	三豊市立和光中学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	三木町立平井小学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	小豆島町立安田小学校	2/18～2/22	1名
教育学部4年	多度津町立豊原小学校	2/18～2/22	1名

6. 研修内容

- 児童・生徒の指導
- 職員室での仕事
- 学校行事（朝礼等）への参加
※土日の学校行事・振替日については、研修校と学生が協議の上、決定する。
- 部活の見学（直接指導はしない）
- その他（研修校の判断による）

7. 事前・事後指導

(1) 事前指導

- 教育学部教員による講話等
- 研修校での直前指導
 - ・「本研修で学びたいこと」についてまとめ（A4判1枚程度），教育学部学務係を通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出

(2) 事後指導

- 研修の感想等についてレポートにまとめ，教育学部学務係を通じて研修校，香川県教育委員会及び研修校を所管する教育委員会に提出（A4判1枚程度）

8. その他

研修の内容・方法等の詳細については，香川県教育委員会及び研修校と協議の上決定する。

平成30年度 第1期教育実践集中講座

魅力のある職業 先生になろう。

～夢と笑顔を大切にする教師をめざして～

- 【趣 旨】 ・ 教員採用試験にチャレンジするための準備講座である。
 ・ 教育法規等の各テーマについて、具体的な事例をもとにケーススタディを行う。

【担 当】 客員教授 東条 直樹（香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事）
 客員教授 山田 真粧美（香川県教育センター 教職員研修課 主任指導主事）
 客員教授 岡 静子（高松市立屋島小学校前校長）

【日 程】

日 時	場 所	主 な 内 容	備 考
5月14日(月) (10:30~12:00)	教授法 演習室	<講義・演習> (山田) 【教職理解】 「教職の魅力 教職とは」	「教職概論(ロ)」の 講義として行う。 (寺尾)
5月14日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【学級経営】 「子どもの成長と学級経営」	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
5月19日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習> (東条・山田) 【教育法規】Ⅰ「教員になる①(東条)」 「教員になる②(山田)」	「教育法規入門」の 集中講義として行う。 (佐藤(盛)・十河)
5月26日(土) (13:00~16:10)	621 講義室	<講義・演習> (東条・山田) 【教育法規】Ⅱ「教員になる③(東条)」 「教員になる④(山田)」	
6月18日(月) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習> (山田) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒理解を基盤とした生徒指導」	「生徒指導論B」の 講義として行う。 (毛利)
7月 2日(月) (14:40~16:10)	611 講義室	<講義・演習> (山田) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(イ)」の 講義として行う。 (櫻井)
7月 9日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月20日(金) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習> (岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(イ)」の 講義として行う。 (毛利)
7月25日(水) (13:00~15:00)	611 講義室	<講義・演習> (東条) 【子ども理解】 「附属学校参観の心がまえ」	「教育実践プレ演習」 の講義として行う。 (松下)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL: 087-832-1683

平成30年度 第2期教育実践集中講座

プロの教師とは何か？

～教師になるあなたへのエール～

【趣旨】・学校現場における実際の指導(教科、道徳、総合的な学習の時間)の在り方について考える。

・未来への夢や教師への憧れが膨らむような事例を通して、教師のやりがいを探る。

【担当】大林 克暢 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 課長補佐(兼)主任指導主事)

東条 直樹 (香川県教育委員会事務局 義務教育課 主任指導主事)

岡 静子 (高松市立屋島小学校前校長)

【日程】

日 時	場所	主 な 内 容	備 考
10月19日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<講義・演習>(山田・岡) 【教育課題の探究】 「いじめと体罰」(山田) 「教員としての倫理観」(岡)	「教職実践演習」の 講義として行う。 (山岸)
11月19日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(岡) 【教職理解】 「魅力ある教師をめざして」	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)
11月19日(月) (18:00~19:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(東条) 【教育の最新情報】 「教職への道Ⅰ(教師に求められる力)」	「教職の総合的研究 (ロ)」の講義として 行う。 (十河・佐藤(盛))
11月22日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(東条) 【生徒指導】ケーススタディ 「生徒指導ケーススタディ」	「生徒指導論A」の 講義として行う。 (毛利)
11月28日(水) (13:00~16:30)	611 講義室	<講義・演習>(東条・岡) 【教育実習事後指導】 「教育実習を振り返って」 シンポジウム・助言	「教育実践演習A・ B(教育実習事後指 導)」として行う。 (山岸)
11月30日(金) (8:50~12:00)	611 講義室	<講義・演習>(大林・岡) 【校種別による選択実務研修】 「はばたけ若き力を生かして ～4月からの心がまえ～」 中学校(大林)・小学校(岡)	「教職実践演習」の 講義として行う。 (山岸)
12月 3日(月) (18:00~19:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(大林・東条) 【教育の最新情報】 「教職への道Ⅱ(教育課程と学校評価)」	「教職の総合的研究 (ロ)」の講義として 行う。 (十河・佐藤(盛))
12月 6日(木) (13:00~14:30)	415 講義室	<講義・演習>(岡) 【生徒指導】ケーススタディ 「小学校における生徒指導上の実際問題」	「生徒指導論A」の 講義として行う。 (毛利)

12月10日(月) (8:50~10:20)	611 講義室	<講義・演習>(東条) 【教職理解】 「授業とは 保育とは」	「教職概論(イ)」の 講義として行う。 (松下)
12月12日(水) (10:30~12:00)	422 講義室	<講義・演習>(岡) 【人権教育】 「学校教育における人権教育 小学校での取組事例に学ぶ」	「人権教育」の講義 として行う。(櫻井)
1月15日(火) (13:00~14:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(大林) 【道徳教育】ケーススタディ 「子どもの心を耕す道徳の授業」	「道徳教育論(ロ)」 の講義として行う。 (櫻井)
1月21日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(ロ)」 の講義として行う。 (毛利)
1月21日(月) (18:00~19:30)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【学級経営】 「学級で育つ子どもたちのために」	「教職の総合的研究 (ロ)」の講義として 行う。 (十河・佐藤(盛))
1月28日(月) (16:20~17:50)	教授法 演習室	<講義・演習>(岡) 【子ども理解】場面指導(ロールプレイ)	「学級経営論(ロ)」 の講義として行う。 (毛利)

※当該授業履修登録者以外の参加申し込み先 附属教職支援開発センター事務室 TEL: 087-832-1683

香川大学教育学部の専任教員として

～16年目の取組と今後の展望～

佐藤盛子・十河妹・大熊裕樹

1 16年目の活動内容 <資料3-2参照>

2 今年度の取り組みの重点

(1) 学校現場に即した授業の充実

香川大学教育学部では、「4か年を見通した実地教育プログラム」が構築されている。この枠組みを使って交流人事教員の教職支援をまとめたものが、図1の「4か年を見通した教職支援」である。

学部科目での新しい取組としては、4年前期に開講している教員採用試験対策「教職の総合的研究(ロ)」と「授業実践論」、「教育法規入門」との互いの授業内容を関連付けながら、さらに質の高いものとなるように検討して実施し、新たな科目として3年生の後期に「教職の総合的研究(イ)」をスタートさせた。「授業実践論」では、交流人事教員全員で指導に当たり、授業内容を「就職セミナー」や「教職自主サークル」と関連付けることで、講話と演習をPDCAサイクルで繰り返すことを実現できた。受講者も増加し、学生の主体的な学びが伺える。教員として求められる基本的な授業づくり(課題の設定、発問、板書の仕方等)を押さえたうえで学習指導案を作成し、模擬授業や授業後の討議を行う他、論作文を書くことを通して教育への見方・考え方を深めるなど、より実践的な授業研究の在り方について講義している。平成31年度は、教職の総合的研究(ロ)と統合していく予定である。また、ほとんどの4年生が受講する「教育法規入門」では、基本的な教育法規(教基法、学校法、地公法、教特法等)及び答申・通知などについて、事例をもとにしながらか解説を加え、法令遵守精神の高揚を図っている。この授業でも、客員教授との連携の在り方を見直すことで、授業の質を高めることができたと考えている。

	1年次		2年次		3年次		4年次	
	学校理解		子ども理解		授業理解		教職理解	
授業	大学入門ゼミ	教職概論	教育実践 プレ演習	初等授業 研究 生活科授 業研究	教育実践 演習	教職の総 合的研究	授業実践 論 教育法規 入門	教職実 践演習
就職 セミナー				就職ガイ ダンス		就職ガイ ダンス 筆記対策	集団面接 個人面接 模擬授業	卒業前 セミナー
その他		採用試験 説明会		採用試験 説明会		教職自主 サークル 採用試験 説明会	教職自主 サークル 採用試験 説明会	

【図1 4か年を見通した教職支援】

…交流人事教員が中心となる

教職大学院授業科目の「道徳授業の実践研究」では、話し合いや書く活動など、道徳科に生かす多様な指導方法について、具体的な実践事例を取り上げ、その長所や配慮事項を確認するとともに、道徳科におけるより効果的な表現活動のあり方について講義している。また、院生が行った道徳の模擬授業では、教材づくりや進め方などの点で助言を行っている。「授業力開発実習」では、担当教員として現職教員学生の研究テーマに基づく置籍校での授業実践に関わり、教材研究のあり方や具体的な授業づくり、授業実践後のリフレクションなどにおいて指導している。さらに、「教職実践研究」では、担当学生の研究テーマに関連した先行研究や実践事例を紹介したり、学生が実習を通して学びを深めたことを価値づけたり、研究の上で疑問に感じたことを解決に導いたりするなどの指導・助言を行っている。

(2) 教育委員会・各学校との連携

今年度も、従来通り、人的ネットワークを生かして学内外の橋渡し役を務めており、地域ブロック研修会での講師、研究大会に向けての指導助言者として、様々な教育活動推進に尽力してきた。

また、各学校からは校外学習のサポート、学習支援の依頼などについて、正規の手続きを踏まえて実施できるように連絡・調整を行っている。学生に対しては、学生支援ボランティアや学生支援員としての児童生徒への関わり方などの相談や、卒業研究に係る授業参観、アンケート調査の依頼、研究会への参加など、様々な体験ができるように配慮している。

(3) 学生の教員採用選考試験突破へのサポート～教職自主サークルと教育相談～

授業外では特に、「教職自主サークル」（ほぼ毎週月曜 18 時からスタート）「教育相談」（教員の空き時間等）などを通して学生を支援している。「教職自主サークル」は、教員採用に向けた学生の自主的な活動であり、3名の交流人事教員は毎回オブザーバーとして指導・助言している。この活動には教員を志望する学生が多く参加しており、学生同士で研鑽する場となっている。活動内容は、集団討論や模擬授業、場面指導などの演習をはじめ、各自自治体の教員採用選考試験に関する情報・意見交換を行っている。交流人事教員も講師を務めるなどして関わり、教員採用選考試験にとらわれることなく、教育課題をどうとらえるか、問題にどう対応するかなど、教員としての心構えなどの助言も行っている。さらに、今年度も8月には教員採用選考試験二次対策として「先輩教員からの模擬授業指導」を実施し先輩教員25名学生約80名の参加があった。また、11月には、教職に就いて2年目の卒業生から教職の魅力や困難さ等の話を聞く「卒業生と在校生との交流会」を教職の総合的研究（ロ）とタイアップして実施した。3年生を中心に、約130名の参加があった。

教職自主サークル
「先輩教員からの模擬授業指導」



(4) 学外との連携

10月14日（日）、「未来からの留学生（教育学部フェスティバル in 香大）」に「ブロックで遊ぼう！」「おはなしの国2018」の講座を開設して、学生と子どもたちが触れ合った。教育実習などでは体験しがたい内容であり、教材教具を作成するアイデアや工夫、子どもに遊び方を伝えるための語りかけ方などを学ぶよい機会となった。また、「ブロックで遊ぼう！」では、5名の3年生を中心に、今年度から1年生（33名参加）の学生が企画運営に携わった。それぞれの役割を通して、子どもたちへの関わり方について学ぶ場となった。

未来からの留学生「ブロックで遊ぼう！」



3 今後の課題

現体制（学部担当2名、教職大学院1名）での取組が始まり3年目になり、交流人事教員の大学との関わり方は大きく見直され、授業の質を高めつつ、更なる効率化を図っていくことを目指している。平成29年度から授業科目・内容・体制等について見直していき、今年度の前期から平成31年度にかけて構築している最中である。その中心は、授業として位置付けられている「授業実践論」「教育法規入門」「教職の総合的研究」「教育学演習ⅡA・B」「教育学演習ⅢA・B」と授業外の「教職ガイダンス・セミナー」「教職自主サークル」である。交流人事教員はもとより、教育学部の教員も取り込む授業科目の再編と学生の自主的な活動の精選を行い、無理なくしかも効果的な教員養成における支援の在り方を模索している。

教員の資質能力の総合的な向上が求められている今、交流人事教員それぞれの校種や経験から、学生に教員という仕事のやりがいやすばらしさについて伝えるとともに、課題が山積する学校現場でたくましく歩んでいくことができるように応援していきたいと考えている。そのために、学生の自主的な活動をサポートし、より教育現場に即した内容を今後も提供していくとともに、大学教育の改革が進む中で、交流人事教員の重責を感じながら、現状に甘んじることなく、実務家教員としての資質向上に励んでいく所存である。

16 年目の活動内容

1 学内における活動

(1) 委員会等

<佐藤> 学生支援専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー

<十河> 学生支援専門委員会、教育実習実施専門委員会、教職支援開発センター企画推進委員、未来からの留学生アドバイザー、広報委員会、教員研修システム共同開発委員会

<大熊> 学生支援専門委員会、未来からの留学生アドバイザー、教職大学院専攻委員

(2) 授業等

<佐藤> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、学校教育課程論A・B、教職概論イ・ロ、教育法規入門、教職の総合的研究イ・ロ、教育実践演習、教職実践演習、学校教育実践研究、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導・主査、卒論副査

<十河> 大学入門ゼミ、教育学演習ⅠA・B、教育学演習ⅡA・B、教育学演習ⅢA・B、教育学チュートリアルⅠ・Ⅱ、生活科授業研究、学校教育課程論A・B、教職概論イ・ロ、授業実践論、教育法規入門、教職の総合的研究イ・ロ、教育実践演習、教職実践演習、特別教育実習A・B、初等授業研究、就職セミナー、教職自主ゼミ、卒論指導、卒論副査

<大熊> 【教職大学院】指導法分析と学習支援、教職実践研究Ⅰ・Ⅱ、授業力開発実習Ⅰ・Ⅱ、学校臨床基礎実習Ⅰ・Ⅱ、探究実習、教材開発の理論と実践、授業研究の実際、道徳授業の実践研究、教職実践研究交流会、教職実践研究フォーラム

【学部】学校教育課程論A、教職概論イ、教育法規入門、教職の総合的研究、授業実践論、教育実践演習、教職課程論A、就職セミナー、教職自主ゼミ、香川県教員採用予定者公立学校インターンシップガイダンス

(3) その他

<佐藤> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

<十河> 「教職実践演習」WG、未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当

<大熊> 未来からの留学生講座担当、卒業前対策講座担当、松楠会学内理事

2 学外における活動

(1) 研究業績（学会発表等）

<十河> 「学部と附属による若年教員向け研修動画コンテンツの開発」（平成30年度 学部・附属共同研究プロジェクト研究代表者、「つながる・つなげる教職支援～交流人事教員の取組を中心に～（平成30年度日本教育大学協会四国地区研究集会「鳴門集会」）

<大熊> 「教職大学院開設に伴い変化する交流人事教員の取組」（平成29年度日本教育大学協会四国地区研究集会「高知集会」2017.12）

(2) 社会的活動

<佐藤>（委員等）香川県がん教育推進委員、香川県「心のメッセージコンクール」審査会委員（2018.09～12）（講演等）高松市総合教育センター道徳教育研修会講師（市単独）（2018.08）、三観小研道徳部研修会講師（2018.10）平成30年度三観地区小学校教育（道徳）研究発表会指導・助言（2018.11）初任者研修会講師（2018.12）、香川県がん教育推進委員会指導・助言（2018.01）、高松市立塩江小学校「夢プログラム」授業指導・助言（2018.06）、高松青年会議所「夢プログラム」指導・助言（2018.05.11）、香川県教職員連盟講師部会研修会講師（2018.04.06）、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会講（2018.09）、放送大学面接授業講師（2018.12）（その他）大学入試センター試験（監督）、「小さな親切」運動作文（審査）

<十河>（講演等）坂出市立加茂小学校校内研修講話（2018.05）、香川県教職員連盟講師部会研修会講師（2018.07、08）、香川県保健師助産師看護師実習指導者講習会講師（2018.09）、香川県中学校教育研究会特別活動部会研究発表会指導・助言（2018.10）（その他）大学入試センター試験（監督）、「小さな親切」運動作文（審査）

<大熊>（講演等）香川県教職員連盟講師部会研修会講師（2018.05、07、08）、綾川町立滝宮小学校家庭教育学級講演会講師（2018.06）、松楠会大川支部総会講演会講師（2018.08）（その他）大学入試センター試験（監督）、読売新聞作文コンクール審査（香川県）

大学教員の公立学校現場での研修制度

学校教員の実践的・臨床的な資質向上を図るためには、教員養成を担う教育学部がその授業の内容を学校現場と結びつけ、学校の「教育実践」という視点から再構成することが必要です。このためには、大学・学部教員が従来以上に学校現場との関わりを深める必要があります。

こうしたことから、香川大学教育学部では、平成 15 年より香川県教育委員会との連携のもと、大学・学部教員が学校現場で自己研鑽する制度を設けています。

平成 30 年度は、家政教育の畦 五月教員、国語教育の古橋紀宏教員、音楽教育の東浦亜希子教員が高松市立亀阜小学校で 2 日間の研修に取り組みました。

研修を行った大学教員

准教授 畦 五月（家政教育）
 研修校 高松市立亀阜小学校
 研修日 平成 30 年 11 月 21 日（水）
 12 月 5 日（水）

准教授 古橋 紀宏（国語教育）
 研修校 高松市立亀阜小学校
 研修日 平成 30 年 11 月 21 日（水）
 12 月 5 日（水）

講師 東浦 亜希子（音楽教育）
 研修校 高松市立亀阜小学校
 研修日 平成 30 年 11 月 21 日（水）
 12 月 5 日（水）

平成30年度香川県教育委員会免許法認定講習(特別支援学校教諭)

1 目的

特別支援学校教員及び小・中学校特別支援学級担当教員等を対象として、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める免許法認定講習を開設し、特別支援学校教諭二種及び一種免許状を取得、または領域の追加をするための所要単位を修得させるとともに、その資質の向上を図る。

2 開設科目、受講人員、期間

	開設科目	受講者数	月日
講義 I	重複・発達障害者の教育総論	87名	8月17日(金)・18日(土) (講義16時間)
講義 II	病弱障害児の教育総論	89名	8月19日(日)・20日(月) (講義16時間)
講義 III	聴覚障害児の心理・生理及び病理	61名	8月21日(火)・22日(水) (講義16時間)
講義 IV	特別支援教育の基礎理論	73名	8月23日(木)・24日(金) (講義16時間)
講義 V	視覚障害児の教育課程及び指導法	53名	8月25日(土)・26日(日) (講義16時間)

3 日程 (全講義同一日程)

時間	8:45	9:00	9:10	10:40	11:00	12:30	13:30	15:00	15:20	16:50
第1日	受付	オリエンテーション		講義①②	休憩	講義③④	昼食	講義⑤⑥	休憩	講義⑦⑧
第2日		受付		講義⑨⑩	休憩	講義⑪⑫	昼食	講義⑬⑭	休憩	講義⑮⑯

4 講師 (香川大学)

	期日	科目	講師
講義 I	8/17・18	重複・発達障害者の教育総論	教授 武藏 博文 教授 小方 朋子
講義 II	8/19・20	病弱障害児の教育総論	教授 西田 智子
講義 IV	8/23・24	特別支援教育の基礎理論	教授 小方 朋子

香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状(英語)）平成30年度

・ 文部科学省委託事業(平成30年度小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業)として13講座(14単位)を平成28、29年度に引き続き開設した。

・ 3年目となる今年度は、香川県内から32名の受講者があり、うち1名が今年度だけで全13講座(14単位)を受講した。また、平成28年度からの受講生を合わせると、今年度は16名が免許状取得に必要な14単位を取得した。

(1) 実施状況（講座別受講者数）

講座名	実施日	単位数	受講者所属都道府県														計	
			香川	徳島	愛媛	鳥取	岡山	広島	愛知	大阪	兵庫	奈良	和歌山	福岡	佐賀	大分		宮崎
生徒指導論	9/1-2	1	8				1	1	2	1	2	1			1			17
学校教育相談学	7/31, 8/3	1	12							1	1	1			1		1	17
英語科教育法概説	6/16-17, 8/4-5	2	5	1	1			1	2	1		1		1				13
英文法概論	8/21-22	1	8		1			1	1	2	2	1	1					17
英語史概論	7/7-8	1	10							2	1	1						14
英語音声学概論	8/11-12	1	16				1	1	2	2	1	1	1	1		1		26
英米文学史概論	8/17-18	1	16						1	1	1	1	1	1		1	1	24
英語圏児童文学	9/15-16	1	9						1	2	1	2	1		1		1	18
英会話基礎	7/28-29	1	16		2	1		1	1	1		1	1	2	1			27
英作文基礎	8/6-7	1	11		2			1		2	1	1	1	1				20
日英のことばと文化	9/22-23	1	14					1	2	2	2	1	1	1	1			25
異文化コミュニケーション論概説	7/14, 7/21	1	11		2		1	1		1	2	1						19
異文化理解概説	9/8-9	1	13					1	1	1	2	1		1	1			21
		計	149	1	8	1	3	9	11	19	17	14	7	8	6	2	3	258

(2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県														計			
	香川	徳島	愛媛	鳥取	岡山	広島	愛知	大阪	兵庫	奈良	和歌山	福岡	佐賀	大分		宮崎		
14	1							1										2
13											1							1
12	1																	1
11																		0
10						1												1
9	2																	2
8	4									1								5
7	2						1				1	1						5
6	1		1					1						1				4
5	3																	3
4	4									1								5
3	3		1															4
2	7	1			1		2		2			1		1	1			16
1	4			1	1		2				1						1	10
計	32	1	2	1	2	1	5	2	4	2	1	2	1	1	1	2		59

香川大学免許法認定公開講座（中学校教諭二種免許状(英語)）平成28～30年度

・ 文部科学省委託事業(小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業)を、平成28～30年度受託・実施し、毎年13講座(14単位)を開設した。

・ 3年間で、香川県内から67名の受講者があり、うち32名が免許状取得に必要な14単位を取得した。

(1) 講座別受講者数

講座名	単位数	受講者所属都道府県 (人)																				
		香川	徳島	愛媛	高知	鳥取	岡山	広島	栃木	東京	神奈川	福井	愛知	大阪	兵庫	奈良	和歌山	福岡	佐賀	大分	宮崎	計
生徒指導論	1	44			1	1	2	1			1		2	1	4	1		1	1			60
学校教育相談学	1	46			1	1	2		1				1	4	1		1	1		1		60
英語科教育法概説	2	41	1	1	1	1	2	1		1		2	1	5	1	1	2					61
英文法概論	1	46		1	1	1	2	1				2	2	6	2	2	1					67
英語史概論	1	49		1	1	1	2		1	1			2	5	3	1	2					69
英語音声学概論	1	52			1	1	2	1					2	7	2	1	2			1		72
英米文学史概論	1	53			1	1	2					1	1	5	2	2	2			1	1	72
英語圏児童文学	1	52			1	1	2		1			1	3	2	6	4	2	3	1		1	80
英会話基礎	1	55		2	1	1	2	1				1	1	3	1	1	2	1				72
英作文基礎	1	47	1	2	1	1	1	1		1			2	5	2	2	2					68
日英のことばと文化	1	51			1	1	2	1	1			2	2	5	3	1	3	1				74
異文化コミュニケーション論概説	1	46	1	2	1	1	2	1		1			1	6	3	1	3					69
異文化理解概説	1	50			1	1	2	1		1		2	1	5	1	1	2	1				69
計		632	3	9	13	13	25	9	2	2	6	1	15	19	66	26	15	26	6	2	3	893

(2) 取得単位数別受講者数

取得単位数	受講者所属都道府県 (人)																					
	香川	徳島	愛媛	高知	鳥取	岡山	広島	栃木	東京	神奈川	福井	愛知	大阪	兵庫	奈良	和歌山	福岡	佐賀	大分	宮崎	計	
14	32			1	1	1				1			1				1					38
13	1														1							2
12	3					1								1								5
11	1													1			1					3
10	1						1							1								3
9	2													1		1						4
8	5											1		1								7
7	3													1	1	1						6
6	4		1										1					1				7
5	4											1		1	1							7
4	1													1								2
3	3		1														1					5
2	5	2						1				1		1						1	1	12
1	2		1						2		1	2		2	1						1	12
計	67	2	3	1	1	2	1	1	2	1	1	5	2	11	4	2	3	1	1	2		113

香川大学教員免許状更新講習

1. 平成30年度 実施状況

■ 平成30年6月～11月 開講

	講習数	申込者数	受講者数 (選択講習は延べ数)
必修講習	7	1,112	878
選択必修講習	21		840
選択講習	72		2,144
廃止講習	3	合計	3,862

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
6月2日(土)	【必修】1)教育の最新事情	櫻井 佳樹 坂井 聡	120	120
6月3日(日)	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働1	山本 珠美	53	53
	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—1	林 智一	39	39
	【選択】SF文学のために	渡邊 史郎	28	28
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	松島 充	29	29
	【選択】衣生活の管理1	小川 育子	15	15
6月9日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	清國 祐二	67	67
	【選択】篆刻 —印章の制作—	小西 憲一	24	24
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(リコーダー)	青山 夕夏	12	12
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	上野 耕平	31	31
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済1	朴 恩芝	25	25
6月10日(日)	【選択必修】Visual Programmingと情報教育	宮崎 英一	10	10
	【選択必修】学校、家庭並びに地域の連携及び協働2	山本 珠美	52	52
	【選択】ことばについて考える —日本語の音声を中心に—1	轟木 靖子	20	20
6月16日(土)	【選択必修】教育相談ははじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—2	林 智一	38	38
	【選択】国語科表現教育演習	佐藤 明宏	29	29
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	高橋 尚志	23	23
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済2	朴 恩芝	27	27
	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	宮武 伸行	60	60
6月17日(日)	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	松島 充	24	24
	【選択】衣生活の管理2	小川 育子	16	16
6月23日(土)	【必修】2)教育の最新事情	松井 剛太 山本 木ノ実	80	80
6月30日(土)	【選択必修】発達障害と教育相談	武藏 博文	40	40
	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	平 篤志	28	28
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	石川 雄一	18	18
	【選択】経済学で使う数学1	天谷 研一	20	20
	【選択】花の形づくりと遺伝子組換え植物の現状1	鳴海 貴子	24	24
7月1日(日)	【選択】数や図形の見方の発展	佐竹 郁夫	23	23
	【選択】小学校教員を対象とした家庭科・製作学習の実践1	小川 育子	16	16
	【選択】子どもの豊かな造形表現や遊びについて考える1	吉川 暢子	29	29
7月21日(土)	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	石川 雄一	13	13
7月28日(土)	【選択】哲学教育とこども哲学	三宅 岳史	12	12
8月1日(水)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み—1	加野 芳正 山岸 知幸	50	50
	【必修】3)教育の最新事情	齋藤 嘉則 橋本 忠行	179	179
8月2日(木)	【必修】4)教育の最新事情	齋藤 嘉則 大久保 智生	179	179
	【選択】地球とその歴史を探る1	寺林 優	26	26
8月8日(水)	【選択必修】学校カウンセリングの基本1	山田 俊介	40	40
	【選択】社会と歴史の教育1	鈴木 正行	34	34
	【選択】小学校教員を対象とした家庭科・製作学習の実践2	小川 育子	16	16

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
8月8日(水)	【選択】女性のライフサイクルにおける健康支援について考える	佐々木 睦子 石上 悦子 松本 千佳	39	39
	【選択】ことばについて考える -日本語の音声を中心に-2	轟木 靖子	20	20
	【選択】臨床心理学的及び医学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	黒滝 直弘 神原 憲治 野口 修司	50	50
8月9日(木)	【選択必修】学校教育について(不登校)	宮前 義和	50	50
	【選択】からだでこころで感じて動く表現の世界	藤元 恭子	30	30
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応1	肥塚 肇雄	50	50
	【選択】地球とその歴史を探る2	寺林 優	23	23
	【選択】プログラミング言語の最新動向	香川 考司	8	8
	【選択】希少糖生産学の基礎	森本 兼司	30	30
	【選択】消費行動と生活経営	時岡 晴美	30	30
8月10日(金)	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	竹森 元彦	28	28
	【選択】特別支援教育	西田 智子	79	79
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	小森 博文 高木 由美子	14	14
8月17日(金)	【選択必修】学校カウンセリングの基本2	山田 俊介	38	38
8月18日(土)	【選択必修】教育相談場面における傾聴技法	高田 純	50	50
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	大久保 智生	128	128
	【選択】食の安全の科学 -科学を無視した食の安全・安心-	川村 理	98	98
8月19日(日)	【必修】5)教育の最新事情	櫻井 佳樹 有馬 道久	157	157
8月21日(火)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-2	加野 芳正 山岸 知幸	47	47
	【選択】職業教育を考える	山田 貴志	11	11
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	若井 健司	15	15
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理1	堀川 洋	34	34
	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	小柴 俊	4	4
	【選択】手洗い方法とその指導, 人の体のやさしい動かし方	前川 泰子 南 妙子 香川 里美	36	36
	【選択】社会と歴史の教育2	鈴木 正行	20	20
【選択】初歩の陶芸	倉石 文雄	18	18	
8月22日(水)	【選択】はじめての特別支援教育	小方 朋子 中島 栄美子	98	98
	【選択】株式会社の設立と運営	溝渕 彰	50	50
	【選択】中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活	宮島 美花	9	9
	【選択】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	高橋 亨輔 井面 仁志	20	20
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理2	堀川 洋	35	35
8月23日(木)	【必修】6)教育の最新事情	毛利 猛 岡田 涼	78	78
9月1日(土)	【選択】科学史をふまえた理科教育論	北林 雅洋	15	15
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習	笠 潤平	19	19
9月2日(日)	【選択】数学-中・高の教材に潜む高等数学	内藤 浩忠	22	22
	【選択】ビジュアル・ツールを活用した国語学習の方法	山本 茂喜	30	30
	【選択】子どもの豊かな造形表現や遊びについて考える2	吉川 暢子	32	32
9月9日(日)	【選択必修】道徳教育の充実	植田 和也	48	48
	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育:過去と現在1	バテン ポール	28	28
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境1	妹尾 理子	16	16
	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	米村 耕平	28	28
9月15日(土)	【選択】子どもの発育発達と体力	山神 眞一	59	59
	【選択】社会的企業と社会起業家	佐藤 勝典	13	13
	【選択】ESDから始める道徳教育	伊藤 裕康	24	24
9月16日(日)	【必修】7)教育の最新事情	柳澤 良明 有馬 道久	85	85

開設期間	講習名	講師名	受講人数	合格者
9月22日(土)	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在2	バテン ポール	10	10
	【選択必修】ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！→やってみよう！	松下 幸司	22	22
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境2	妹尾 理子	10	10
	【選択】子どもを取り巻く環境（メディア・生活習慣・身体活動等）と保健に関わる話1	宮本 賢作	50	50
9月24日(月)	【選択必修】学校を巡る状況の変化と様々な問題への組織的な取り組み-3	加野 芳正 山岸 知幸	48	48
9月29日(土)	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	清國 祐二	54	54
	【選択】性はなぜあるのか？	松本 一範	25	25
	【選択】子どもを取り巻く環境（メディア・生活習慣・身体活動等）と保健に関わる話2	宮本 賢作	51	51
10月6日(土)	【選択】外国人児童生徒とことばについて考える	山下 直子	11	11
10月7日(日)	【選択】表現を探る -楽曲の分析を通して-	岡田 知也	8	8
	【選択】日本社会史	守田 逸人	90	90
10月13日(土)	【選択】絵画（木炭デッサン）制作	古草 敦史	10	10
10月13日(土) ～14日(日)	【選択】身近な植物の生活とその調査法	小林 剛	17	17
11月18日(日)	【選択】天文と気象に関する話題について	寺尾 徹 松村 雅文	20	20
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応2	肥塚 肇雄	29	29
11月25日(日)	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応3	肥塚 肇雄	22	22
計			3,862	3,862

▶ 廃止講習（一次募集終了時に応募者が5名に満たなかった講習）

8月9日(木)	【選択】花の形づくりと遺伝子組換え植物の現状2
9月29日(土)	【選択】経済学で使う数学2
10月7日(日)	【選択】初等整数論と暗号理論への応用

▶ 県別受講状況

年度	H25	H26	H27	H28	H29	H30
香川	578	531	510	569	848	1,043
(県外)						
徳島	7	10	13	14	13	10
愛媛	24	17	35	21	26	17
高知	3		7	4	3	3
島根						1
岡山	1	4	17	12	22	15
広島		1	3	3	6	2
山口					1	1
その他	6	19	19	15	22	20
小計	41	51	94	69	93	69
合計	619	582	604	638	941	1,112

▶ 年度別受講状況

	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30
受講申込者数	561	717	585	619	582	604	638	941	1,112
必修	473	595	497	508	497	484	554	676	878
選択必修							537	665	840
選択（延べ）	1,341	1,618	1,391	1,525	1,388	1,295	1,369	1,844	2,144

2. 平成31年度 実施計画

(平成31年6月～10月)

	講習数	定員
必修講習	6	760
選択必修講習	17	784
選択講習	76	2,187
合計	99	3,731

※応募人数が5名に満たない場合は講習を廃止することがあります。日程等は変更する場合があります。

平成31年1月現在

開設期間	講習名	定員	対象職種
6月8日(土)	【選択必修】国際理解教育としての地理教育を考える	30	教, 養, 栄
	【選択】国語表現演習	30	教
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(リコーダー)	12	教
	【選択】児童期における体育・スポーツ指導	32	教
	【選択】子どもたちとの意味生成を導く教師の「身体性」を考える	10	教
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済1	30	教, 養, 栄
	【選択】農業経済学	35	教, 養, 栄
	【選択】海洋生物生産のための環境学	15	教
6月9日(日)	【必修】1)教育の最新事情	100	
	【選択必修】学校・家庭・地域の連携1	100	教, 養, 栄
	【選択】日本近代文学に於ける「子ども」	30	教
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習1	30	教
6月22日(土)	【選択必修】道徳教育の充実1	50	教, 養, 栄
	【選択】エクセルを用いた基本統計処理	35	教
	【選択】小中高理科で扱う圧力と真空の世界	25	教
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境1	16	教
	【選択】企業の社会的責任と社会的経済2	30	教, 養, 栄
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ1	30	教, 養
	【選択】子どもの豊かな造形表現や遊びについて考える1	32	教
6月23日(日)	【選択必修】教育相談はじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—1	40	教, 養, 栄
	【選択】心理学からみた学習意欲1	30	教
	【選択】植物の進化研究の最前線	15	教
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント1	20	教
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応1	35	教, 養, 栄
7月6日(土)	【選択】心理学からみた学習意欲2	30	教
	【選択】学校体育における「水泳教育」の重要性と授業づくりのヒント2	20	教
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習1	20	教
	【選択】英文法を考える	20	教
	【選択】哲学教育とこども哲学	15	教
7月13日(土)	【必修】2)教育の最新事情	160	
7月15日(月)	【選択必修】発達障害と教育相談	30	教, 養, 栄
	【選択必修】教育相談はじめの第一歩—いじめ・不登校を中心に—2	40	教, 養, 栄
	【選択】深い学びを実現する算数・数学の学習2	30	教
	【選択】プログラミング言語の最新動向	25	教
8月1日(木)	【必修】3)教育の最新事情	160	
8月3日(土)	【選択必修】教育相談場面における傾聴技法	40	教, 養, 栄
	【選択】絵画(木炭デッサン)制作	12	教
	【選択】消費行動と生活経営	30	教
8月4日(日)	【選択必修】小学校英語、指導と評価の実際1	60	教, 養, 栄
	【選択必修】カウンセリング・コミュニケーションについての講義と演習	30	教, 養, 栄
	【選択】子どもの豊かな造形表現や遊びについて考える2	32	教
	【選択】ことばについて考える—日本語の音声を中心に—1	20	教
	【選択】小学校教員を対象とした器楽演奏の実践(ピアノ伴奏法)	12	教
	【選択】学校現場におけるトラブルと法的対応2	35	教, 養, 栄
8月6日(火)	【必修】4)教育の最新事情	160	

開設期間	講習名	定員	対象職種
8月8日(木)	【選択必修】学校カウンセリングの基本	40	教,養,栄
	【選択】幼稚園教員の転換点について考える1	25	教
	【選択】社会と歴史の教育1	40	教
	【選択】地球とその歴史を探る1	15	教
	【選択】臨床心理学的及び医学的側面からみた教育現場での問題への対応法について	50	教,養,栄
	【選択】一次救命処置と、認知症高齢者の家族への対応	30	教,養,栄
	【選択】糖と健康－希少糖の奇跡－1	24	教,養,栄
8月9日(金)	【選択必修】ニュージーランドにおける小・中・高等学校での第二言語教育：過去と現在	40	教,養,栄
	【選択】社会と歴史の教育2	40	教
	【選択】株式会社の設立と運営	50	教,養
	【選択】就職先の企業選択の指標1	10	教
8月10日(土)	【選択必修】小学校英語、指導と評価の実際2	60	教,養,栄
	【選択】外国人児童生徒とことばについて考える	15	教
	【選択】教師の指導が助長する問題行動とその見方	100	教,養
8月19日(月)	【必修】5)教育の最新事情	80	
8月21日(水)	【選択必修】災害対応能力訓練システムを用いた学校現場における地震発生時の対応能力養成実習	20	教,養,栄
	【選択必修】授業の情報化に伴う実験データの可視化とプレゼンテーション	30	教,養,栄
	【選択】ことばについて考える－日本語の音声を中心に-2	20	教
	【選択】発声指導法(児童発声・変声期)と歌唱実践	15	教
	【選択】環境に優しいマイクロスケール化学実験ならびに生物化学の基礎	30	教
	【選択】職業教育を考える	12	教
	【選択】特別支援教育	30	教,養,栄
	【選択】ナノテクノロジーと電子材料	25	教
8月22日(木)	【選択】西欧の歴史学	100	教
	【選択】幼稚園教員の転換点について考える2	25	教
	【選択】地球とその歴史を探る2	15	教
	【選択】就職先の企業選択の指標2	10	教
	【選択】中・高等学校家庭科食物分野内容の実験による検証	12	教,栄
	【選択】学力と資質・能力を伸ばす学級づくりと授業づくり1	50	教
	【選択】楽しく学んで、楽しく実践、やさしい健康講座	50	教,養,栄
9月1日(日)	【選択】生活習慣病と感染症の予防医学講座	60	教,養,栄
	【選択】科学的思考力の発達を促進する理科授業の実習2	20	教
	【選択】思考ツールを活用した国語学習の方法	25	教
	【選択】科学史をふまえた理科教育論	30	教
	【選択】数学－中・高の教材に潜む高等数学	30	教
	【選択】中国古典解釈における漢学と宋学	30	教
	【選択】糖と健康－希少糖の奇跡－2	24	教,養,栄
9月8日(日)	【選択】天然物ケミカルバイオロジー	15	教
	【選択必修】道徳教育の充実2	50	教,養,栄
	【選択】衣・食・住の生活文化と環境2	16	教
	【選択】発達障害への心理学的アプローチ2	30	教,養
	【選択】ESDから始める道徳教育	30	教
9月15日(日)	【選択】運動が苦手な子にもやさしいボール運動教材を考える	30	教
9月15日(日)	【必修】6)教育の最新事情	100	
	【選択】学力と資質・能力を伸ばす学級づくりと授業づくり2	50	教
	【選択】子どもを取り巻く環境(メディア・生活習慣・身体活動等)と保健に関わる話	50	教,養,栄
	【選択】天文と気象に関する話題について	21	教
10月5日(土)	【選択】福祉経済論	30	教
	【選択必修】学校・家庭・地域の連携2	100	教,養,栄
	【選択】表現を探る－楽曲の分析を通して－	10	教
	【選択】中国朝鮮族のトランスナショナルな移動と生活	40	教
	【選択】初等整数論と暗号理論への応用	30	教
10月6日(日)	【選択】幾何学的不変量の計算と応用	30	教
	【選択】幾何学的不変量の計算と応用	30	教
10月12日(土)	【選択必修】ICTを活用した「未来の学び」を、知ろう！→考えてみよう！→やってみよう！	24	教,養,栄

思考力等の育成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において、主体的・協働的な言語活動を充実することにより、思考力・判断力・表現力等をはぐくむことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむため、モデル校を指定して研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、思考力・判断力・表現力等の育成に向けて言語活動等を充実させた授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
高松市立屋島中学校	平成30年9月14日(金) 13:30 ~ 16:30	准教授 松島 充	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言

※ モデル校の研究内容

■ 高松市立屋島中学校

研究主題 「主体的な学びを育てる わかる授業の創造」
～思考力・判断力・表現力を育む活動型授業を通して～

学習習慣形成モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、指導方法の工夫改善に加えて、家庭における生活リズムの改善や家庭学習の習慣化が重要であり、家庭や地域と連携して、基本的な生活習慣や学習習慣を形成することが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習習慣の形成に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、学校での授業や活動が学習習慣の確立につながる指導及び家庭や地域との連携の在り方等を先導的に研究し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
東かがわ市立引田小学校	平成30年9月12日(水) 13:45~16:30	教授 佐藤 明宏	教科学習の研究授業後、討議会における指導・助言

※ モデル校の研究内容

■ 東かがわ市立引田小学校

研究主題 「生き抜く力をもった子どもの育成のために」

—小中一貫校へ向けての取組(生活習慣から学習習慣へ)—

学習意欲向上モデル校事業

1 趣旨について

確かな学力の向上のためには、各教科等の指導において学習意欲を向上させ、主体的に学習に取り組む態度を養うことが求められている。

本事業は市町との連携・協力の下、特に児童生徒の学習意欲の向上に重点的に取り組むモデル校を指定し、研究を市町に委託して行うものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、興味・関心を生かし、学習意欲を喚起する授業づくりを先導的に推進し、その成果を普及することで県下の児童生徒の学力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、原則として授業の積極的な公開に努めるとともに、香川の教育づくり発表会などを通して研究成果の積極的な普及・啓発に努める。
- (3) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などの取組を必要に応じて実施し、モデル校の取組を支援するとともに、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (4) 香川県教育委員会は、香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (5) 香川県教育委員会は、モデル校に対して指導主事を継続的に派遣し、適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、授業づくりに向けた事前研修会などモデル校を適切に支援するとともにモデル校の取組を評価する。

3 モデル校への派遣実績

平成30年度はなし

アクティブ・ラーニング研究推進モデル校事業

1 趣旨について

子供たちがこれからの時代に求められる資質・能力を身に付け、生涯にわたって能動的に学び続けることができるようにするためには、「どのように学ぶか」という学びの質を重視し、子供たちの「主体的・対話的で深い学び（いわゆる「アクティブ・ラーニング」）」（以下、アクティブ・ラーニング）を実現する必要がある。を実現する必要がある。

本事業は市町との連携・協力の下、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善を先導的に研究するために、モデル校を指定するものである。モデル校は、各学校の児童生徒の実態を踏まえ、アクティブ・ラーニングの視点からの授業改善の研究を行い、その成果を普及することで、県下の児童生徒の資質・能力の向上に資するものとする。

2 事業実施の概要

- (1) 具体的な研究テーマは、本事業の趣旨を踏まえ、各モデル校で設定する。
- (2) モデル校は、香川の教育づくり発表会・香川県教育センター発表会を通して研究成果の普及・啓発に努める。また、授業の積極的な公開に努める。
- (3) モデル校は、香川県教育センターの調査研究事業に協力する。
- (4) 香川県教育委員会は、モデル校における公開授業等についてホームページによる情報提供などを行い、教員の指導力の向上や研究情報の普及を図るものとする。
- (5) 香川県教育委員会は、必要に応じて香川大学と連携を図り、モデル校の研究を支援する。大学教員は、モデル校を訪問するなどして、指導・助言を行う。
- (6) 香川県教育委員会は、市町教育委員会と連携を図り、モデル校に指導主事を継続的に派遣して適切に支援したりモデル校の取組を評価したりする。

3 モデル校への派遣実績

学校名	日時	訪問者	内容
坂出市立加茂小学校	平成 30 年 5 月 16 日 (水) 13:55 ~ 16:30	准教授 十河 妹	アクティブ・ラーニングや交流活動に関する講話
綾川町立綾上小学校	平成 30 年 8 月 2 日 (木) 14:00 ~ 16:00	准教授 岡田 涼	実践研究の推進に向けた研究内容に関する講話
	平成 30 年 10 月 16 日 (火) 13:50 ~ 16:30		研究授業後の討議会における指導・助言
丸亀市立飯山北小学校	平成 30 年 10 月 3 日 (水) 13:30 ~ 16:30	教授 佐藤 明宏	研究授業後の討議会における指導・助言
さぬき市立さぬき南中学校	平成 30 年 10 月 4 日 (木) 13:30 ~ 16:30	准教授 十河 妹	授業実践(学級活動)に関する指導・助言
高松市立古高松中学校	平成 30 年 10 月 31 日 (水) 13:30 ~ 16:30	准教授 岡田 涼	学習指導の充実に向けた講話、模擬授業への指導
	平成 30 年 1 月 16 日 (水) 13:30 ~ 16:30		研究授業後の討議会における指導・助言

※ モデル校の研究内容

- 坂出市立加茂小学校 (研究主題) 学びの深まりが実感できる教育活動の創造
-ものの見方・考え方を広げ、深める指導方法の工夫-
- 綾川町立綾上小学校 (研究主題) きき合い、かかわり合い、学びを楽しむ子どもの育成
- 丸亀市立飯山北小学校 (研究主題) 自ら考え 共に学ぶ児童の育成
-各教科の見方・考え方を働かせる学習過程の工夫-
- さぬき市立さぬき南中学校 (研究主題) なかまと協働し、主体的に行動できる生徒の育成
-話し合い活動を通して-
- 高松市立古高松中学校 (研究主題) 言語を介して能動的に関わる力の育成

幼児教育支援員派遣事業

幼児教育に関する知識・経験を有する者を幼稚園に派遣することによって、「香川県幼児教育振興プラン」（平成 22 年 2 月）の趣旨の普及及び地域の実情に応じた具体的な取組を進め、もって香川県内の幼児教育の推進を図ることを目的とする。

幼稚園と幼児教育支援員が協力して、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 幼稚園における遊びの充実
- 園内研修の活性化
- 幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について

1 幼児教育支援員

「幼児教育支援員」（以下「支援員」という。）とは、次の者をいう。

- (1) 幼児教育に関し識見を有する者であって、香川県教育委員会事務局（以下「県教育委員会」という。）義務教育課長が指名する者
- (2) 県教育委員会指導主事

No.	氏名	役職 分野
1	松井 剛太	香川大学教育学部准教授 幼児教育
2	片岡 元子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
3	吉川 暢子	香川大学教育学部准教授 幼児教育
4	金子 之史	香川大学教育学部名誉教授 理科教育

2 支援員の職務

支援員の職務は、次のとおりとする。

幼稚園の申請に基づき、幼稚園を訪問し、公開保育の参観・研究協議会の参加等を通じて、指導・助言を行う。

3 派遣実績（7市町17園）

	園名	訪問日時	研修内容	支援員
1	まんのう町立仲南こども園	H30年6月7日(木)	語り合う風土を根付かせる園内研修	松井剛太先生
2	丸亀市立城坤幼稚園	H30年6月12日(火)	幼小接続に視点をとおいた日々の保育	金子之史先生
3	丸亀市立西幼稚園	H30年6月15日(金)	同僚性を高める保育の在り方	金子之史先生
4	高松市立香南幼稚園	H30年6月27日(水)	小学校教育との円滑な接続と互惠性のある幼小交流	松井剛太先生
5	丸亀市立城辰幼稚園	H30年6月28日(木)	幼児理解につながる取組	金子之史先生
6	坂出市立加茂幼稚園	H30年6月29日(金)	今年度の研究の方向性	金子之史先生
7	まんのう町立高篠こども園	H30年7月12日(木)	子どもへのかかわりや環境	片岡元子先生
8	さぬき市立さぬき北幼稚園	H30年8月31日(金)	子どもの思いと教師の願いのズレ	吉川暢子先生
9	高松市立一宮幼稚園	H30年9月18日(火)	非認知スキル向上のための環境構成や支援	松井剛太先生

10	高松市立林幼稚園	H30年9月25日(火)	幼保小連携教育における相互理解への手立て	松井剛太先生
11	まんのう町立長炭こども園	H30年9月27日(木)	主体的活動を促すための環境構成や支援の在り方	片岡元子先生
12	丸亀市立飯山こども園	H30年10月16日(火)	全職員の共通理解の仕方及び園内研修の持ち方	片岡元子先生
13	東かがわ市立本町幼稚園	H30年10月29日(月)	教師のかかわりや環境構成	金子之史先生
14	綾川町立粉所幼稚園	H30年11月2日(金)	幼児が主体的に遊びにかかわる環境構成	吉川暢子先生
15	高松市立三溪幼稚園	H30年12月12日(水)	主体性を育てていくための保育者の役割	金子之史先生
16	高松市立国分寺北部幼稚園	H31年1月31日(木)	幼児期の終わりまでに育てほしい姿の視点からの幼児理解	金子之史先生
17	高松市立香南こども園	H31年2月5日(火)	幼小接続に向けた研修の在り方	片岡元子先生

豊かでたくましい心をはぐくむ教育の推進

道徳教育推進のポイント

- ◆ 道徳科（道徳の時間）を要として学校の教育活動全体を通じて行う指導の工夫
- ◆ 全教師の協力による道徳教育の展開
- ◆ 家庭、地域社会との効果的な連携

趣旨

道徳教育は、道徳科（道徳の時間）を要として、学校の教育活動全体を通じて行われるものとされており、各学校においては、道徳教育推進教師を中心とした指導体制の充実とともに道徳科（道徳の時間）の指導の充実が求められている。

小学校は平成 30 年度、中学校は平成 31 年度からの道徳の教科化を踏まえ、生命を大切にする心や思いやりの心等の倫理観や規範意識、社会性等を育むため、道徳科（道徳の時間）の充実を図るとともに、学校・家庭・地域社会が一体となって取り組む道徳教育を推進する。



「いのちのせんせい」派遣事業

- 常に「生」や「死」に直面している助産師や介護福祉士、獣医師、手話通訳士など、命を守り、命を大切に生きていく意味を語ってくださる方を「いのちのせんせい」として希望する小・中学校に派遣し、体験的、感動的な道徳教育を展開する。
 - ◆平成 30 年度 163 校に派遣予定（6～2 月）

道徳教育指導力向上研修

- 道徳の教科化を踏まえ、指導の工夫や評価の在り方について研修を深めるとともに、各学校における道徳教育の推進を図る。
 - ◆平成 30 年 8 月 23 日（木）、県教育センター
講話：齋藤嘉則教授
 - ◆平成 30 年 10 月 16 日（火）、18 日（木）、県教育センター
講話：植田和也教授

道徳教育地域支援事業

- 学校や地域の実情に応じた特色ある道徳教育を推進する。
- 県教委が作成している地域読み物資料「新ふるさとの心」を児童生徒に配布することで、道徳の時間における積極的な活用を推進する。
 - ◆9 月に配布
 - 道徳教育研究推進校における実践研究（平成 30 年度研究推進校 高松市立国分寺南部小学校、善通寺市立西中学校、三豊市立詫間中学校、土庄町立土庄小学校）
 - ◆第 1 回推進会議（平成 30 年 5 月 10 日）、第 2 回推進会議（平成 31 年 2 月 7 日）での指導講話：植田和也教授

心のメッセージコンクール

- 温かな言葉をかけたりかけられたりした経験等を短い文章と絵で表現した「心のメッセージ」を募集し、児童生徒の自尊感情の高揚と道徳的实践や心情と結びつけた道徳教育の一層の推進を図る。
 - ◆審査会 平成 30 年 10 月 29 日（月）県教育センター 審査委員長 佐藤盛子准教授

香川県学力等調査結果分析検討会議

「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析並びに県下各小中学校が分析結果を有効活用できるよう支援することを目的とする。

分析検討会議は、次の内容に重点をおいた取組を推進することとする。

- 「全国学力・学習状況調査」及び「香川県学習状況調査」の結果分析
- 「香川県学習状況調査」の問題（国語科・算数科）及び質問項目の内容検討

1 委 員

No.	氏名	役職 分野
1	佐藤 明宏	香川大学教育学部教授 国語教育
2	松島 充	香川大学教育学部准教授 数学教育
3	岡田 涼	香川大学教育学部准教授 心理学
4	横山 佳充	香川大学経済学部教授 応用計量分析

2 分析検討会議

日 時	主な内容
6月6日（水）	○これまでの調査結果の分析と今後の取り組みについて ○調査結果分析の活用について
8月20日（月）	○平成30年度全国学力・学習状況調査の報告書について ○平成30年度香川県学習状況調査について ・教科に関する調査 ・質問紙調査
1月15日（火）	○平成30年度香川県学習状況調査の報告書について ・教科に関する調査結果及び指導の工夫について

キャリア教育充実事業（プロを講師とした授業）について

ア 趣旨

県立高校における「各教科・科目」等の授業の適切な場面において、社会から優れた知識・技術・経験を持つ人材を学校教育に迎え入れ、多様な教育活動を実践することにより、学校教育の充実と活性化を図る。

イ 内容

(1) 学習活動の活性化、教育内容の充実、知識・技能の深化及び総合化

- ・ 現在の先端技術や最新の研究、情報等の提供。
- ・ 学校の施設・設備では行えない実験・実習分野について、最新の施設・設備を有する企業や研究機関における実験結果や機器の使用を通じて、具体的な知識を得る。
- ・ 専門分野の話聞くことにより、学習内容の深化を図る。
- ・ 総合的な学習の時間において、生徒の主体的な取組を促進する。

(2) 社会の第一線で働く人の姿に触れることにより、将来の自己の在り方、生き方や進路を考える上での有益な糧の入手、職業意識の高揚

- ・ プロの技術を教授されることにより、職業人に対する尊敬の意識を持つとともに、産業社会の実情を知る。
- ・ 専門的な内容に触れ、自らの進路選択の上で参考にする。
- ・ 社会的な視野を深め、広げる。

ウ 香川大学との連携について

平成30年度は、4校7時間6名の香川大学の教職員を社会人講師として県立高校に招聘した。

教科学習の専門性を深める目的での授業の展開や、「総合的な学習の時間」での進路意識の醸成や、専門的な学究への関心を高めることに大きな効果をあげている。

高大連携（高校生対象の授業公開等に係る連携）について

1 概要

本事業は、平成 15 年 2 月 13 日に高校生等に大学における高度な教育・研究に触れる機会を提供し、学問に対する興味・関心や自ら学ぶ意欲を高めさせるとともに主体的な進路選択ができるようにするため、県教育委員会と香川大学との間で高校と大学との連携に関する協定を結び、県下のすべての高校生等が、香川大学の授業や高校生を対象とした公開講座を受講できるようにしたものである。

2 授業の公開・開講状況・受講状況

平成 30 年度の第 1 学期には、「書物との出会い」「歌唱法基礎 A」「生涯学習概論 I」の 3 科目が、第 2 学期には「哲学 A」「福祉住環境論」の 2 科目が、放課後に大学へ通学して大学生と一緒に受講するものとして公開された。これらの授業は 16:20～17:50 など高校の授業終了後の時間帯で行われている。

また、夏季休業中には、オープンキャンパスの一環として高校生を対象に実施する体験授業に 43 名が受講した。

3 受講の手続き

受講までの具体的な手続きは、大学での受講を希望する生徒が、学修を行うにふさわしいかどうかを校長が判断し、県教育委員会を通して大学へ推薦する。大学側で人数等の調整を行い、県教委に対して受講決定に関する通知を行い、県教委はその結果を各高校を通じて受講者に通知する。

4 授業料等

授業料については、公開授業が 1 科目あたり 2,300 円、体験授業はオープンキャンパスの一環として実施するので無料である。ただし、大学の教員が指示するテキスト等の代金、大学の施設・設備を誤って汚損した場合に備えて賠償責任保険への加入が望ましい。

5 成果の認定等

受講状況が良好であり十分に成果を上げたと認められる生徒に対しては、大学から修了証書が発行される。なお、体験授業については、修了証書は発行されない。

また、学校外の学修に関する単位認定制度を設定している学校においては、生徒の申請を受けて審議し、校長の判断により高等学校の単位として認定することができる。

学生ボランティア派遣事業

1 対象

将来教育関係の分野に進むことを希望する香川大学の学生

※ 前期募集は2学年以上、後期募集からは第1学年も可とする。

2 主な活動内容

小・中学校や教育支援センター（適応指導教室）へ派遣し、学習活動、野外活動及び体験的な活動等学校生活全般において、児童生徒とともに活動する中で、児童生徒の心の悩み等の解消や学校教育活動の活性化を図る。

ア 小・中学校

- ・ 学習活動の補助
- ・ 体験活動や校外学習など学校教育活動及び学校行事への補助
- ・ 学校生活への適応補助
- ・ 別室登校生等への指導補助

イ 教育支援センター（適応指導教室）

- ・ 日常活動の補助
- ・ 生活指導・学習指導の補助
- ・ 野外活動等体験活動の補助

ウ その他（さぬきっ子人権感覚育成事業等）

3 大学と教育委員会との連携内容

ア 募集前に本事業についてのガイダンスを行う。（大学と県教委）

イ 学生ボランティアの募集票の提示と登録名簿の作成を行う。（大学）

ウ 希望者の派遣先へ通知する。（県教委）

エ ボランティア活動中に随時学生の相談を行う。（大学と県教委）

オ 年度末に本事業に参加した学生による発表会を実施する。（大学）

カ 大学と県教委が協議会を行い、意見交換を行う。（大学と県教委）

キ ボランティア終了後、派遣校からそれぞれの学生への評価等によって感謝状を贈る。（県教委）

学生ボランティア派遣状況（H30.12.10現在）

	29年度						30年度					
	登録			派遣			登録			派遣		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1年	1	0	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0
2年	15	12	27	15	12	27	7	19	26	7	19	26
3年	2	19	21	2	19	21	6	15	21	6	15	21
4年	5	15	20	5	15	20	3	14	17	3	14	17
院生等	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	23	46	69	23	46	69	16	48	64	16	48	64

派遣先

	29年度			30年度		
	要請があった学校数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等	要請があった学校等の数	要請があり派遣できた学校等	要請があったが派遣できなかった学校等
小学校	37	23	14	30	25	5
中学校	1	1	0	0	0	0
教支援セ	1	1	0	2	1	1
その他	9	9	0	3	3	0
計	48	34	14	35	26	6

派遣要請に対する派遣率 70.8%

派遣要請に対する派遣率 74.2%

ユーチューブで紹介ビデオを配信しています。
「ユーチューブ 香川県 放課後子ども教室」で検索してください。



放課後子供教室で 子どもたちの居場所づくりの お手伝いをしませんか？



学校では見せない子
どものイキイキとした
表情が見られます!!

香川県教育委員会事務局
生涯学習・文化財課

放課後子供教室（文部科学省所管事業）の活動を支援する人材確保対策として、貴大学に学生ボランティアの派遣について依頼を行います。



放課後子供教室とは…

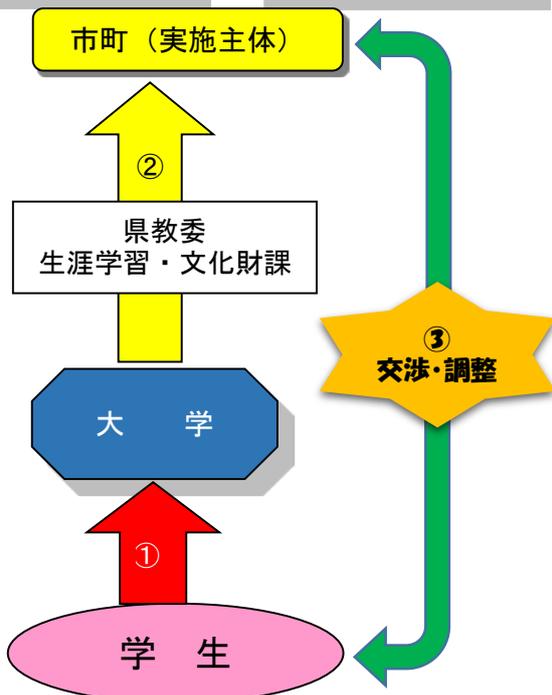
放課後等に小学校の余裕教室等を活用して、全ての子どもたちの安全・安心な活動場所を確保し、地域の方の参画を得て、勉強やスポーツ・文化活動、地域住民との交流活動等の機会を提供する事業です。

ちなみに…、放課後児童クラブ（いわゆる学童保育）は厚生労働省所管事業です。

【ボランティアを開始するまでの流れ】

まずは登録

- ① ボランティア登録
ボランティアを希望する学生は、「学生ボランティア登録申込書」に必要事項（「放課後子供教室」の欄へのチェック、希望する子供教室名の記入など）を記入し、学部の教務係に提出します。
*「連絡先」に記入する電話番号・携帯電話番号は、必ず連絡が取れる番号をお願いします。
- ② 情報提供
登録情報は、大学から県教委を通じて関係する市町へ提供されます。
- ③ 交渉・調整
登録情報を受け取った市町から、後日、連絡があります。参加日時等について市町の担当者と調整を行います。



豊かな人権感覚を育てる事業「出会い・ふれあい・発見隊」学生ボランティア募集

1 目的

- 県内の小・中・高校生が、「出会い・ふれあい・発見隊」を結成し、人権尊重社会の実現に向けて努力している人々と出会い、そこでの豊かな体験を通して、人権感覚を高め、自分の生き方を豊かに創り上げていくための力を身に付けさせる。
- 県内の教員（若年者）や教員をめざす学生（学生ボランティア）が、「出会い・ふれあい・発見隊」と一緒に活動することで、人権教育の指導内容や方法についての資質の向上を図る。

2 主催 香川県教育委員会事務局人権・同和教育課（以下「人権・同和教育課」）

3 参加及び申し込み手続き

（1）参加対象者

- ・ 県内小・中・高・特別支援学校に在籍する児童生徒のうち参加を希望する者 35名程度（先着順）
- ・ 小学1～3年生の保護者及び参加を希望する保護者
- ・ 県内小・中学校、高等学校の教員（特に若年者）のうち参加を希望する者 若干名
- ・ 教員をめざす学生のうち参加を希望する者 10数名
- ・ 穴吹ビジネスカレッジ日本語学科の留学生のうち参加を希望する者 10名程度

（2）申し込み手続き

- ・ 参加を希望する者は、人権・同和教育課に応募用紙を提出する。
- ・ 応募のあった保護者、教員、学生は、原則として参加者とするが、応募状況によっては人権・同和教育課において調整を行う場合がある。また、過半数以上参加できる者に限る。

4 活動日時・場所・内容等（参考；平成29年度）

- ① 7月29日（土） かがわ総合リハビリテーションセンター（現地集合）
くでけでけ隊の皆さんに、よさこいを教えてもらおう！ 障害者スポーツを体験しよう！>
- ② 9月30日（土） 国立療養所大島青松園（高松港集合）
く入所されている方が得意としていることを一緒に体験しよう！>
- ③ 10月21日（土） 五色台少年自然センター（高松駅集合）
く外国の人たちと、うどんづくりやゲームを通して交流しよう！>
- ④ 12月2日（土） サンポートホール高松（現地集合）
く「みんなで考える人権のつどい」を成功させよう！>



資料 1 5

第 17 回未来からの留学生を終えて

実行委員長 上野耕平

この度、第 17 回未来からの留学生を平成 30 年 10 月 14 日（日）に実施致しました。当日は晴天のもと多くの児童・生徒及びそのご家族にご来場頂きました。本学部では未来からの留学生の開催に際し、国語や社会などの各領域の他、学内サークルが企画した 26 に及ぶ講座を開講しておりました。26 講座は前もって申し込みが必要な事前申込型講座（13 講座）と、当日参加が可能な自由参加型講座（13 講座）に分かれており、児童は各々の興味や関心に基づき複数の講座に参加して、楽しそうに時間を過ごしていました。

本事業は大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな役目を担う一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶ貴重な機会でもあります。各領域からの報告には、「活動を通じて子どもに対する見方が変わった」、「子どもの発達に対する理解が深まった」など、新たな発見や学習に繋がったことを示す感想が認められます。本事業が 17 年間にも渡って継続されてきた理由が、まさに学生らの感想に表れているのであろうと思います。

最後に、本年度の活動は香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部の事務職員、各領域担当の教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施にご尽力頂きましたことに深く感謝しますと共に、来年度以降の活動につきましてもどうかご支援頂けますようお願い致します。



平成30年度特別支援教育コーディネーター協議会

1 目 的

幼稚園、認定こども園、小・中学校並びに高等学校において、発達障害を含む障害のある児童生徒の指導・支援を充実させるために、また、特別支援学校のセンター的機能を充実させるために、そのリーダー的役割を担う特別支援教育コーディネーター等を対象に、特別支援教育に関する現代的課題を共有することを目的とする。

2 対象 及び 受講者数

	月日	地域	対象	受講者数
全体	8月2日	全県	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	360名
県立	11月6日	全県	高校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	39名
地 域 別	9月14日	仲善	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	34名
	9月21日	小豆	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	23名
	10月2日	中讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	58名
	10月12日	西讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	54名
	10月17日	東讃	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	27名
	11月22日	高松	幼稚園・認定こども園・小学校・中学校・特別支援学校の特別支援教育コーディネーター	103名

3 研修テーマ 及び 講師 (香川大学)

実施日	研修テーマ	講師 (香川大学教育学部)
8月2日	特別支援教育概論	教授 小方 朋子
11月6日	高等学校における支援	教授 坂井 聡
9月14日	心理教育アセスメント ～評価から支援へ～	准教授 中島 栄美子
9月21日	行動面の問題への対処と社会性の支援	教授 武藏 博文
10月2日	学校支援体制と外部機関との連携	教授 宮前 義和
10月12日	発達とコミュニケーション	教授 坂井 聡
11月22日	協調運動障害の特徴と体育授業での配慮	准教授 米村 耕平

香川 CST 事業

独立行政法人科学技術振興機構（JST）の理数系教員（コア・サイエンス・ティーチャー）養成拠点構築事業において、香川大学と香川県教育委員会が共同して提案した企画が平成 23 年度に採択された。支援期間は平成 26 年度までであった。平成 27 年度以降は「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」のもとに設置された専門委員会「香川 CST 事業推進委員会」が業務を引き継ぎ、CST 養成プログラム（教材 CST、現職教員向け教材 CST）を実施し、CST 活動を推進することになった。平成 30 年度の主な取組みは以下のとおりである。

■ 受講者

(1) 学生

教材 CST=21 名（継続 16 名、新規 5 名）

平成 30 年度修了予定 3 名

(2) 現職教員

教材 CST=実施なし

■ 教材 CST 研修会

実験・観察教材開発研修会

	日付	内容	場所
1	2018 年 10 月 18 日	教材紹介 参加学生 8 名、学生による発表 1 件	附属坂出中学校
2	2018 年 11 月 8 日	教材紹介 参加学生 11 名、学生による発表 1 件	附属坂出中学校
3	2019 年 2 月 14 日	教材紹介	香川大学教育学部
4	2019 年 2 月 21 日	教材紹介	附属坂出中学校
5	2019 年 2 月 26 日	教材紹介	香川大学教育学部

四国道徳ラボの取組

植田 和也

平成30年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業 (NITS 独立行政法人教職員支援機構)

今年度のテーマ

「質の高い道徳科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発～「四国道徳ラボ」を核として～」

質の高い道徳科の授業づくりに資する高度な資質能力の育成をねらう研修プログラムを目指して、研修の構成を可能な範囲で3層として、授業づくりの①基礎編、②実践編、③チャレンジ編を設定してきた。6月には、中心発問に焦点をあて、10月には板書構成に焦点を当てて、校内研修等で活用できる演習をチャレンジ編に取り入れてきた。

四国道徳ラボとして展開するために、県教育委員会や県教育センターに加えて、四国内の道徳教育に関する研究団体や学会の四国支部とも連携を図ってきた。四国道徳ラボの取組が、道徳教育に関する学びのネットワークの拡充につながるように今後も寄与したい。

① 研修の実施内容（実施時期、対象人数、会場、日程、内容等）

研修名 日時	講師、提案者等 (敬称略)	人数	会場	内容・日程	備考
道徳ラボ研修会Ⅰ H30.6.23	七條正典 清水顕人 金綱知征 植田和也	82人	香川大学	指導方法の基礎基本、 中心発問、	
道徳ラボ研修会Ⅱ in 高知 H30.7.14	浅見哲也 植田和也 小島啓明 吉原聖人 中田 百香 阿部利幸	63人	高知大学	道徳科の授業づくり 基礎基本と評価	(道徳学会四国 支部との共催)
道徳ラボ研修会Ⅲ H30.10.6	柴原弘志 田邊重任 植田和也 大熊裕樹 野村一夫 金綱知征	100人	香川大学	多様な指導方法の実 践、板書構成の検討	
道徳ラボ研修会Ⅳ in 愛媛 H30.10.27	城戸 茂 七條正典 竹田敏彦 坂井親治 植田和也	101人	愛媛大学	いじめ問題と道徳科 の授業づくり、	(愛媛大学教職 大学院との共 催)
道徳ラボ研修会Ⅴ H30.12.15	木下美紀 森有希 小林 園 有馬葉子	108人 (事前)	香川県 教育センター	質の高い授業づくり 模擬授業、演習、 講演	
道徳ラボ研修会Ⅳ in 徳島 H31.2.16	澤田浩一 七條正典 田邊重任 山本木ノ実		鳴門教育 大学 (予定)	道徳科での個への支 援や配慮、対談、 講演	(道徳学会四国 支部との共催)

今年度の作成教材 「質の高い道徳科の授業づくり DVD 教材」校内研修、個人研修等で活用

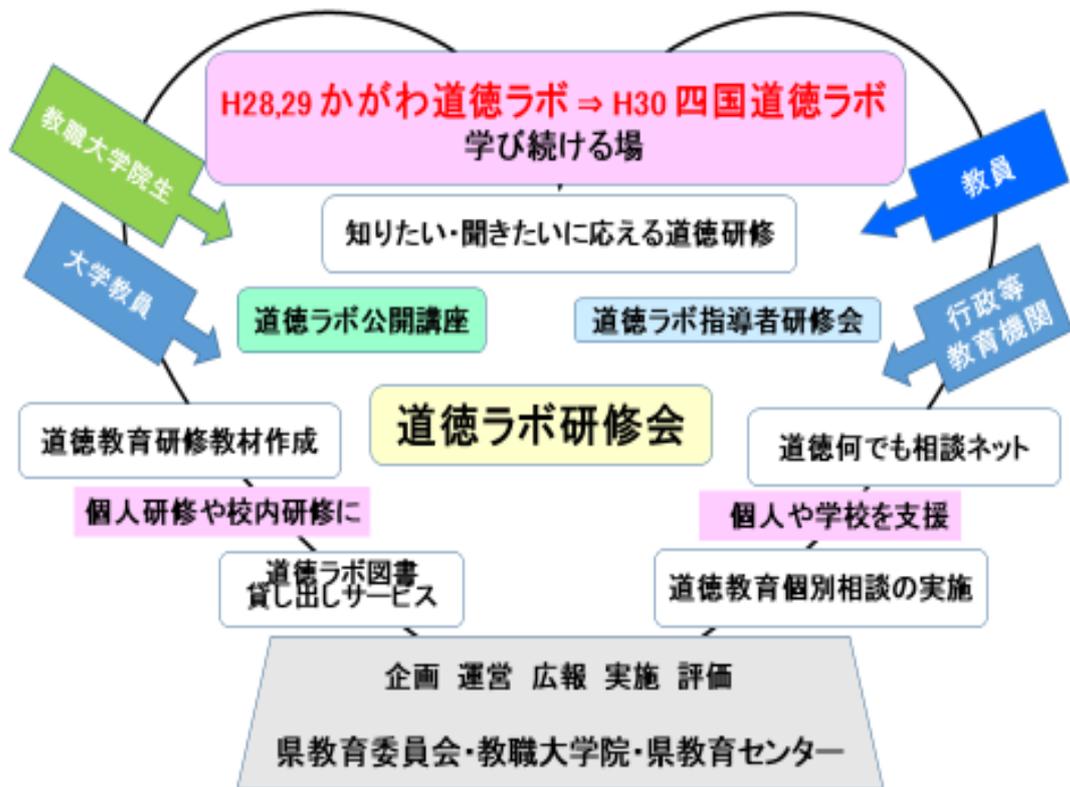
道徳ラボを継続してきたことでの様々な場での学びの広がりや深まりが多様な形で見られたこと。

事例1 平成28年度の教職大学院生の置籍校がDVD教材を校内研修で活用 ⇒ 各教員の疑問や悩みを「道徳教育何でも相談ネット」を活用しやり取り ⇒ 複数の教員がH29かがわ道徳ラボに参加 ⇒ 夏休み校内研修を支援 ⇒ 平成30年度も継続的に参加

事例2 平成28年かがわ道徳ラボに参加 ⇒ 道徳ラボ研修資料を校内で活用 ⇒ 校内研修での反応や疑問を「道徳教育何でも相談ネット」を活用しやり取り ⇒ 道徳教育推進教師が他の複数教員とともにH29かがわ道徳ラボに参加 ⇒ 当該校の研究授業に教職大学院生も参加し研修

事例3 「道徳ラボQ&A」を他県の指導主事さんが、研究指定校等へ紹介 ⇒ 今年度ラボに参加

平成29年度は、「知りたい・聞きたいに答える道徳研修」として、「道徳何でもQ&A」を位置付けて、大変好評であったこと。他県からも多数の参加があり、3年間の継続で1500名超の参加。未定だが、次年度は英語ラボと道徳ラボの教科化対応ラボへの発展も検討

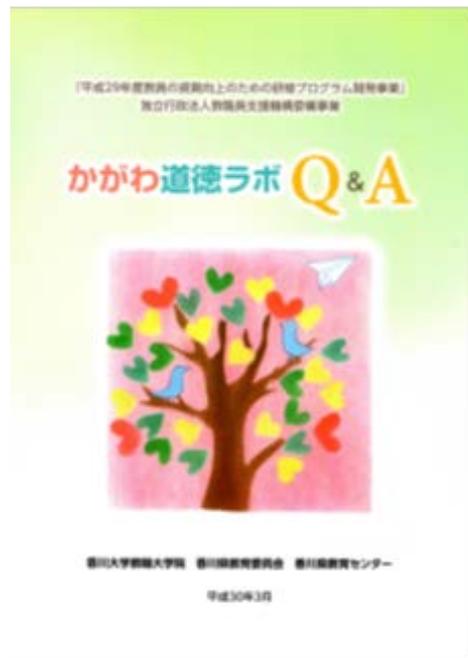


かがわ道徳ラボ から 四国道徳ラボへ

『校内研修、個人研修で活用できる教材作成と配布』



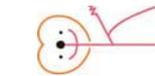
平成 28 年度



平成 29 年度

平成30年6月4日

教育関係機関 各位
教職大学院 各位



香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 専攻長 有馬 道久
香川県教育センター 所長 真鍋 佳樹

平成30年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業 四国道徳ラボ研修会 I のご案内

新緑の候、各教職大学院、教育関係機関におかれましては、充実した教育活動が展開されていることと存じます。さて、このたび、昨年度に引き続き、独立行政法人教職員支援機構の「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」に採択され、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携のもと、「質の高い道徳科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発～「四国道徳ラボ」を核として～」を推進することとなりました。平成28年度から取り組んできました「かがわ道徳ラボ」には、四国各県より多くの皆様にご参加いただきました。そこで、今年度は四国道徳ラボとして、より発展・充実できるように取り組んで参りたいと考えます。

つきましては、四国道徳ラボ研修会 I を下記の通り開催いたします。道徳科の授業づくりを考えると、ともに学びの場を共有していただければと願います。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

四国道徳ラボ研修会 I のテーマ「発問について考える」

日時：平成30年6月23日（土）13:15～16:45
 場所：香川大学教育学部教授法演習室（テニスコートの東隣1階です）
 参加費：無料
 対象：教員・教育関係者・学部生・大学院生等
 日程：12:45～13:15 受付
 13:15～13:25 開会挨拶 日程説明等
 13:25～14:15 基礎編 「道徳科の授業づくりに係る基礎的事項の確認」
 植田 和也（香川大学）
 実践発表 清水 順人（附属坂出小学校）
 助言 七條 正典（高松大学）
 金網 知征（香川大学）
 14:25～15:25 実践編 「道徳科の実践より」
 植田 和也
 15:35～16:45 チャレンジ編 「校内研でやってみよう 発問づくり」
 進行 植田 和也
 16:45～ 閉会



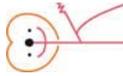
申込方法：参加ご希望の方は、裏面の参加申し込み票をFAXにてお送りください。

FAX以外に電話やメールでもかまいません。

申込締切：平成30年6月18日（月）午後5時必着

平成30年9月3日

教育関係機関 各位
教職大学院 各位



香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 専攻長 有馬 道久
香川県教育センター 所長 真鍋 佳樹

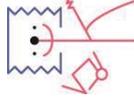
平成30年度 教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業 四国道徳ラボ研修会 II のご案内

残暑の候、各教職大学院、教育関係機関におかれましては、充実した教育活動が展開されていることと存じます。さて、このたび、昨年度に引き続き、独立行政法人教職員支援機構の「教員の資質向上のための研修プログラム開発支援事業」に採択され、香川県教育委員会・香川県教育センターとの連携のもと、「質の高い道徳科の授業づくりを支援する研修プログラムの開発～「四国道徳ラボ」を核として～」を推進することとなりました。平成28年度から取り組んできました「かがわ道徳ラボ」には、四国各県より多くの皆様にご参加いただきました。そこで、今年度は四国道徳ラボとして、より発展・充実できるように取り組んで参りたいと考えます。

つきましては、四国道徳ラボ研修会 II を下記の通り開催いたします。道徳科の授業づくりを考えると、ともに学びの場を共有していただければと願います。多数ご参加くださいますようお願い申し上げます。

四国道徳ラボ研修会 II のテーマ「授業づくり～指導方法、板書～について考える」

日時：平成30年10月6日（土）13:15～16:50
 場所：香川大学教育学部教授法演習室（テニスコートの東隣1階です）
 参加費：無料
 対象：教員・教育関係者・学部生・大学院生等
 日程：12:45～13:15 受付
 13:15～13:25 開会挨拶 日程説明、講師紹介等
 13:25～15:25 基礎・実践編
 シンポジウム 「道徳科の授業づくりについて考える」
 進行 金網 知征（香川大学）
 舟我 清加（香川県教育センター）
 シンポジスト 田邊 重任（高知学園短期大学）
 柴原 弘志（京都産業大学）
 植田 和也（香川大学）
 15:35～16:50 チャレンジ編 「校内研でやってみよう 板書構成の検討」
 進行 小学校 大熊 裕樹・野村 一夫（香川大学）
 中学校 植田 和也・金網 知征（香川大学）
 16:50 閉会



申込方法：参加ご希望の方は、裏面の参加申し込み票をFAXにてお送りください。

FAX以外に電話やメールでもかまいません。

申込締切：平成30年9月28日（金）午後5時必着

香川大学教育学部附属坂出中学校で 支援活動① を実施しました

7月9日、本校に隣接する香川大学教育学部附属坂出中学校において、教育創造コースの2年生が、総合学習CANの「支援活動①」を行いました。



学年の枠を超えたクラスター（チーム）ごとに、探究テーマを決めて取り組んでいます。

「究極のシャーペン」は、何を根拠に検証しますか？



電池が長持ちするモーターですね。想像していたよりかなり高いレベルで探究しているの、びっくりしました。



体のツボは、どんな実験で調べられるかな？
調べ学習だけで終わらないようにね！



ちょっとデータの数が少なそうだね。
データの信ぴょう性はあるかな？



様々なテーマを設定し、活発に探究できていることに驚きました。また、秋の発表会を楽しみにしています。

香川大学教育学部からの出前講座⑤（2年）

を実施しました

10月29日、香川大学教育学部から片岡元子先生を招き、「幼児期の教育」という題で教育創造コースの2年生にご講義いただきました。



教育創造コースの2年生は、今年度附属幼稚園に2回実習に行きました。そこでの体験を振り返ってみましょう。

サッカーや砂遊びをしました。

どんなことを園児と一緒にしましたか？



幼児期は遊びを通して成長します。折り紙で「しゅりけん作り」に挑戦しよう。



意外と難しい！

できました～

幼児の遊びには、幼児の成長や発達にとって重要な体験が多く含まれています。先生と一緒に遊んで、幼児の自主性を伸ばしてください。

今日、教えていただいたことを、次回の支援で活かしたいと思います。ありがとうございました。

香川大学教育学部附属特別支援学校へ 訪問・見学に行きました

11月12日、坂出市内にある香川大学教育学部附属特別支援学校に、教育創造コースの2年生が訪問しました。大西副校長先生から、学校の概要や生徒への効果的な支援についてご説明いただいた後、小学部・中学部・高等部の各部主事先生の案内で授業参観をさせていただきました。

中学部と高等部は、いくつかの班に分かれて「作業学習」を行っています。



窯業・陶芸班では、コップや茶碗を作っています。家政班では、作業開始前に今日の目標を決
作業時間が時計の図で示されて分かりやすいです。め、見通しをもって取り組んでいます。



農耕班の袋づめでは、写真を使って作業手順
を分かりやすく説明したパネルに感動。

紙すき班でも、作業内容がよく分かる工夫
が随所に見られます。



生徒が自立するため
に工夫された、様々
な支援活動に驚きま
した。本日はありが
とうございました。



離島や僻地における特別支援教育の遠隔支援実証プロジェクト

インクルーシブ教育に向けた教員・支援員の専門性向上を目指して

インクルーシブ教育では、子どもたち一人ひとりに応じた教育・指導が求められるそのため特別支援教育の専門家による教職員への指導に高いニーズがある。一方、離島では地理的制約により十分な支援が受けられない課題があった。

そこで香川大学と富士通は、香川県教育委員会の協力を得てインクルーシブ教育の実現に向け、ICT を活用し、教職員等の『特別支援教育の専門性向上』、さらには『障害理解の促進』（心のバリアフリー）に取り組み、有効性を実証した。

○自閉症VR 体験

障害理解の促進（心のバリアフリー）を目指して

障がいがある子どもたちの困難をVR（仮想現実）により当事者視点で疑似体験できるシステムを構築することを目的とした。このシステムは、自閉症者の感覚過敏を体験できる全天球映像を利用し、VR ヘッドマウントディスプレイで疑似体験を実施するもので、机上では得られない深まりのある障害理解体験を可能とした。

これまた、発達障害については疑似体験をすることができないために、指導者が対象児をアセスメントできない状況があったが、この疑似体験により、発達障害のある子どもたちの人権に配慮した教育的指導が可能になると考えられる。



○遠隔授業指導・遠隔教育相談

教職員・支援員の専門性向上を目指して

特別な支援を必要とする子どもたちの授業を全天球カメラでビデオ撮影し、専門家が臨場感ある全天球映像を視聴・確認する。そして、ビデオ情報で得られた資料を基に、子どもたちへの接し方や教え方などについて、教職員へ的確にアドバイスすることを可能とした。さらにテレビ会議を活用、離島教育現場へ遠隔での相談指導を実現した。

これまで、時間的、人的そして移動に関するコストがかかるため、離島等での授業支援には制限があったが、テレビ会議システムを導入することで、皇都が下がることが期待されると同時に、教員の専門性も向上させることができる。



覺書・要項

香川大学教育学部と香川県教育委員会との 連携協力に関する覚書

(目的)

第1条 香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）とは、教員養成の充実、教員の資質・能力の向上及び教育上の諸課題への対応のため、相互に連携協力して実践的な研究及び活動を行い、その成果を生かして香川県の教育の充実・発展を図る。

(実施機関)

第2条 前条に規定する連携協力は、甲（その附属機関を含む。以下同じ。）と乙（その所管する教育機関を含む。以下同じ。）の間で実施する。

(研究及び活動の内容)

第3条 第1条の規定に基づき連携協力して実施する内容は、次のとおりとする。

- (1) 教員養成に関する事項
- (2) 教員研修に関する事項
- (3) 学校教育上の諸課題への対応に関する事項
- (4) その他両者が必要と認める事項

(連携の方法)

第4条 甲と乙は、連携協りに当たってそれぞれ職員の派遣及び受け入れについて協力するとともに、自らの有する施設等の利用についても、業務に支障のない範囲で双方便宜を供するものとする。

(連携協議会)

第5条 甲と乙は、相互に連携協力を推進するため、「香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会」（以下「連携協議会」という。）を置く。

(経費)

第6条 連携協力の推進に関わる経費については、各機関が負担する。ただし、職員の派遣経費は、要請した側が負担する。

(補則)

第7条 この覚書に定めるもののほか、連携協力の細目その他については、甲と乙が協議して別に定めるものとする。

2 この覚書に定める事項に疑義が生じた場合は、甲と乙は協議してその解決を図るものとする。

この覚書は、2通作成し、甲と乙がそれぞれ1通を所持するものとする。

平成14年 5月30日

香川大学教育学部長
妻 鳥 敏 彦

香川県教育委員会教育長
惣 脇 宏

香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会要項

1. 設置

香川大学教育学部（以下「甲」という。）と香川県教育委員会（以下「乙」という。）との連携協力に関する覚書第5条の規定に基づき、香川大学教育学部と香川県教育委員会との連携協議会（以下「協議会」という。）を設置する。

2. 事業

協議会は、連携協力に関する事項等について協議するため、年1回程度開催する。

3. 組織

協議会は、別表に掲げる職にある者をもって組織する。

4. 役員

協議会には、会長、副会長を置き、会長には香川大学教育学部長をもって充てるとともに、副会長には香川県教育委員会教育長をもって充てるものとする。

会長は、協議会を代表し、会務を統括する。

副会長は、会長を補佐し、会長に事故ある時は、副会長がその職務を代理するものとする。

5. 専門委員会

協議会に、連携協力に係る具体的な事項等について検討するため、専門委員会を設置することができる。

専門委員会には、委員長及び副委員長を置くものとする。

なお、専門委員会は、甲又は乙の申し出により適宜開催するものとする。

6. 幹事会

協議会に、協議会及び専門委員会の事務を処理するため、幹事会を置くものとする。

幹事は、香川大学教育学部及び香川県教育委員会の関係職員をもって充てるものとする。

7. 補則

この要項に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、協議会の承認を経て会長が定める。

附 則

この要項は、平成14年5月30日から施行する。

附 則

この要項は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要項は、平成20年2月13日から施行する。

附 則

この要項は、平成27年4月1日から施行する。

別 表

香川大学教育学部

教育学部長
各副学部長
教育研究評議員
実地教育委員会委員長
学生支援専門委員会委員長
学務委員会委員長
入試専門委員会委員長
附属学校代表
附属教職支援開発センター長
事務課長

香川県教育委員会

教育長
理事
教育次長
総務課長
義務教育課長
高校教育課長
特別支援教育課長
香川県教育センター所長